

NEWS LETTER

No.

13

2007
MARCH

リウマチ

Newsletter of Japan College of Rheumatology

JCR2007 横浜大会特集号

第51回 (中)日本リウマチ学会総会・学術集会
第16回 国際リウマチシンポジウム



有限責任中間法人

日本リウマチ学会



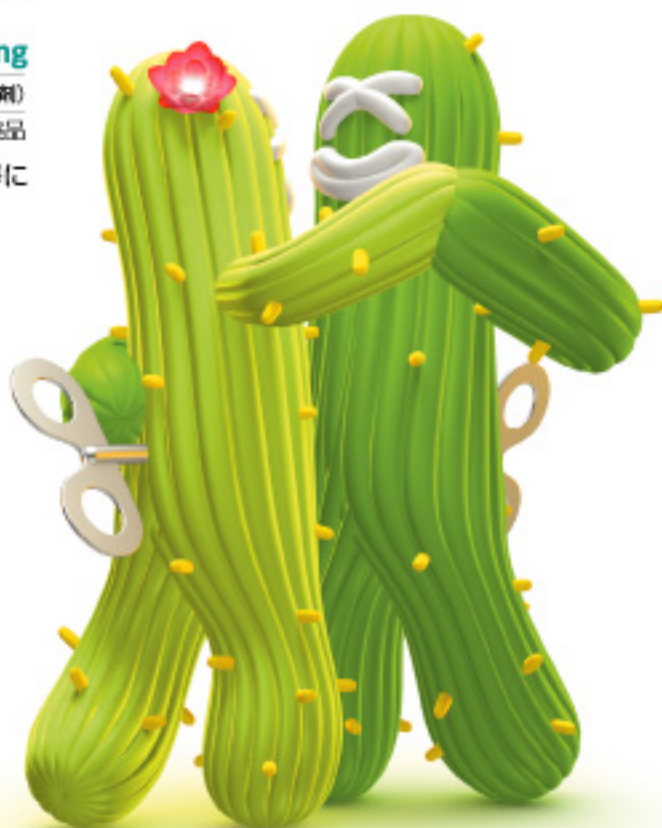
非ステロイド性消炎・鎮痛剤 薬価基準収載

モービック®錠 5mg・10mg

Mobic® Tablets 5mg・10mg (メロキシカム製剤)

劇薬/指定医薬品

※効能・効果、用法・用量、禁忌および使用上の注意等については添付文書等をご参照ください。



販売元

いのち、ふくらまそう。

第一製薬株式会社

資料請求先
〒103-8234 東京都中央区日本橋三丁目14番10号
ホームページアドレス
<http://www.daiichipharm.co.jp/>



Daiichi-Sankyo GROUP



Boehringer
Ingelheim

製造販売元

日本ベーリンガーインゲルハム株式会社
東京都千代田区豊洲町2丁目6番8号

127X180 5-06

体外診断用医薬品

リウマチの新しい見方

マトリックスメタロプロテイナーゼ-3

MMP-3

関節滑膜の活動性把握に血清又は血漿MMP-3

血清又は血漿
MMP-3
関節滑膜の増殖

X線写真
骨の破壊

リウマトイド因子
抗ガラクトース欠型IgG抗体等
免疫学的異常

CRP、赤沈等
全身の炎症

健保適用

パナクリア®MMP-3「ラテックス」

血清又は血漿中マトリックスメタロプロテイナーゼ-3測定用

販売元



第一化学薬品株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋三丁目13番5号

製造販売元



第一ファインケミカル株式会社



龍 順之助

第51回日本リウマチ学会総会・学術集会
第16回国際リウマチシンポジウム
会 長

J
C
R
2
0
0
7
開
催
に
つ
い
て

日本リウマチ学会会員の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のことと拝察申し上げます。

このたび、第51回日本リウマチ学会総会・学術集会および第16回国際リウマチシンポジウムを、平成19年4月26日(木)より29日(日)までの4日間にわたり、横浜パシフィコ会議センター(横浜市)にて開催させていただくことになり、現在鋭意準備を進めております。

今回は、「次なる半世紀に向けて—病態解明と治療の新たなる挑戦—」をテーマに掲げ、特別講演、教育研修講演、シンポジウム、インストラクティブコースレクチャー、ワークショップ、ポスターセッション、ランチョンセミナー、イブニングセミナーを予定しております。

日本リウマチ学会総会・学術集会は昨年4月、50周年という節目を迎え、長崎大学の江口勝美会長のもと長崎にて盛会に開催されました。今回は、51回目の学術集会として、新たな半世紀の幕開けにあたります。その記念すべき年に伝統ある本学会を開催させていただきますことを、大変光栄に存じております。

近年は、関節リウマチの治療は、生物学的製剤の導入により、治療法が大きく変化しつつあり、多大なる関心が寄せられております。また、本学会参加者も4000人を超えると予想されます。本学会を通して、リウマチ性疾患の幅広い分野についての臨床、研究、教育について最新の知見、トピックス、オーバービューを公開し、臨床と基礎の垣根を超えた情報交換の場であるよう、さまざまな企画をしております。

会期中の4月26日～29日の間、シンポジウム12題の他、特別講演、ランチョンセミナー計24題、イブニングセミナー計10題を予定しており、また今回の特徴として、教育研修講演を22題企画しております。各分野におけるトップクラスの先生方に貴重なお話をいただき、また会員の皆様には学会参加と同時に、教育研修単位の取得にも役立つよう考案しました。この機会に新しい情報交換、収集の場といたく、その他の多くの企画を用意し、学会場にてお待ちしております。

会員の皆様にとりまして、今までにも増して活発で実りある、日本リウマチ学会学術集会でありますよう、できる限りの努力をさせていただきます。是非、多くの先生方にご参加いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

JCR2007

**The 51st Annual General Assembly and Scientific Meeting of
Japan College of Rheumatology (JCR)
The 16th International Rheumatology Symposium**

**第51回 日本リウマチ学会総会・学術集会
第16回 国際リウマチシンポジウム**

2007年4月26日(木)～29日(日) パシフィコ横浜

次なる半世紀に向けて
リウマチの病態解明と治療の新たな挑戦

Moving Ahead to Take on the Next Half Century
Understanding rheumatic diseases and challenges for new treatments

開催概要

第51回日本リウマチ学会総会・学術総会 第16回国際リウマチシンポジウム

会期：2007年(平成19年)4月26日(木)～29日(日)

会場：パシフィコ横浜

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1

TEL：045-221-2155(代)

http://www.pacifico.co.jp/

会長：龍 順之助(日本大学医学部整形外科 主任教授)

学術集会事務局(連絡先)：

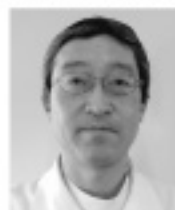
日本大学医学部整形外科学教室 斎藤 修、手塚葉子

〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町30-1

TEL：03-3972-8111 内線(2492)

FAX：03-5966-8644

E-mail：ra07nmo@med.nihon-u.ac.jp



斎藤 修

日本大学医学部整形外科学教室

運営事務局：

C/O 株式会社コングレ 今仲、鈴木

〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1

弘済会館ビル 6階

TEL：03-5216-5318 FAX：03-5216-5552

E-mail：jcr2007@congre.co.jp

本部事務局：

有限責任中間法人 日本リウマチ学会

〒105-0001 東京都港区虎の門1-1-24

第一オカモトヤビル9階

TEL：03-5251-5353 FAX：03-5251-5354

E-mail：gakkaim@ryumachi-jp.com

◆学術プログラム

＜指定演題＞	会長講演……………1セッション 特別講演……………5セッション 教育研修講演……………15セッション 桜教育研修講演……………2セッション(4演題) Annual Course Lecture…7セッション(7演題) Instructive Course Lecture…5セッション(15演題)
＜シンポジウム＞	国際シンポジウム……………5セッション(25演題) シンポジウム……………12セッション(69演題)
＜一般演題＞	プレナリー……………4セッション(16演題) ワークショップ……………97セッション(688演題) ポスター……………41セッション(266演題)
＜リウマチセミナー＞	ランチョンセミナー……………25セッション(27演題) イブニングセミナー……………5セッション(9演題)

参加者へのお知らせ

1. 学会総会・学術集会参加の皆様へ

- 総合受付は展示ホール1階およびパシフィコ横浜会議センター2階で行います。
受付時間/7:30～17:00(29日は15:00まで)
受付内容/総合案内、参加登録受付、新入会受付、抄録集販売、各専門医制度研修単位の取得手続

①参加費

学術集会参加費……………	15,000円
アニュアルコースレクチャー……………	5,000円
初期臨床研修医(身分証要)……………	5,000円
コメディカル……………	3,000円
医学部学生(学生証要)……………	3,000円

②抄録集販売

抄録集	
日本語版……………	3,000円
英語版……………	3,000円

(Modern Rheumatology Supplement)

- * 学会員には英語版・日本語版とも事前に発送致します。
- * 当日参加登録された方には、プログラム(サマリー掲載あり)を無料で配布します。
- * アニュアルコースレクチャーと国際リウマチシンポジウム用のシラバスは学会会場で配布致します。

2) 学術集会本部

会議センター3階 315、316号室

3) 会場内は必ずネームカードをご着用下さい。

本学会では各会議場入口でネームカードをチェックし、

ネームカードのない方の入場はお断り致します。ご協力をお願い致します。

- 第16回国際リウマチシンポジウムにも第51回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会のネームカードで参加できます。
- 学会員の方は事前にお送りする抄録集をご持参下さい。尚、当日総合受付にて英語版抄録集(Modern Rheumatology Supplement)、日本語版抄録集を有料で販売致します。
- (中)日本リウマチ学会に入会される方は、総合受付にて手続きをして下さい。なお、学会場では年会費の受付は行いません。

2. 専門医制度単位の取得について
(詳細は会場でご確認下さい。)

本学術集会において取得できる研修単位は次のとおりです。

- 日本リウマチ学会・リウマチ専門医
学術集会出席：10単位 発表(筆頭)：5単位
国際リウマチシンポジウム出席：5単位
アニュアルコースレクチャー出席：7単位
- 日本整形外科学会・整形外科専門医＝下記の講演受講ごとに1単位取得できます。(但し、1日あたり最大4単位、学会期間中最大6単位までです。)
・教育研修講演(教育研修講演5、6、12は除く)
・アニュアルコースレクチャー
・桜リウマチセミナー

ランチョンセミナー
イブニングセミナー

・桜教育研修講演1（桜教育研修講演2は除く）

*桜リウマチセミナー及び桜教育研修講演は、学術集会とは別に単位取得可能です。

- 3) 日本内科学会・認定内科専門医＝学術集会出席5単位（要ネームカード）
- 4) 日本皮膚科学会・認定皮膚科専門医＝学術集会出席6単位（要ネームカード）
- 5) 日本アレルギー学会・認定医・専門医・指導医＝学術集会出席4単位（*要ネームカード）、筆頭発表3単位（*要抄録該当箇所）

*いずれもコピー可

- 6) 日本小児科学会・認定医＝学術集会出席5単位
- 7) 日本医師会生涯教育講座＝学術集会出席3単位（要ネームカード）

*日本リウマチ学会専門医の方は、専門医（認定医）手帳をお持ち下さい。総合受付で資格維持単位取得証明の捺印を行います。

*日本整形外科学会教育研修単位を取得ご希望の方は、総合受付で1題につき、1,000円をお支払いの上、日整会教育研修講演受講証明書をお受け取り下さい。（1日4単位までで学会期間中最大6単位までです）

発表についてのご案内

セッション記号及び発表時間

セッション名	発表時間
AL (Annual Course Lecture)	講演50分 質疑応答10分
IS (International Symposium)	発表20分 質疑応答5分
PL (Plenary Session)	発表12分 質疑応答3分
S (Symposium)	座長の指示に従って下さい
W (Workshop)	発表7分 質疑応答3分
P (Poster)	発表5分 質疑応答2分

◆口演発表について

口演は、パソコンでの発表のみと致します。スライド、OHP、ビデオでの発表はできません。

ご発表データはPower Pointでご準備ください。ご発表の1時間前までにプレビューセンターまで発表データを保存したメディアをご持参下さい。

（バックアップは必ずご持参ください。）

ご発表の際は、演台に準備したモニター、キーボード、マウスを用いて発表して下さい。

*PC本体の持込は原則として受付いたしません。但し、Windows Vistaでデータを作成されている場合は、ご自身のPCをお持込ください。

■プレビューセンター

- ・会議センター 211号、212号（全会場共通）
- ・受付時間：7：30～17：30（29日は16：30まで）

◆PC発表用データ作成上のお願い

- 使用できるアプリケーション：Windows Power Point 2000/2002/2003
- 対応OS：Windows (Windows98以上)、Macintosh (MacOS8.6以上)
- フォントはOS標準のみご使用ください。
- 画面の解像度はXGA (1024×768) をお願いします。
- データファイル名は「セッション記号」-「発表順番」-「氏名」をつけてください。
例1：W001-2-0000 例2：PL1-2-0000
- プレビューセンターでのデータ修正はできませんのでご了承ください。
- 動画や音声ファイルの使用はご遠慮ください。
- Mac OSで作成されたスライドはWindowsでは文字などがズレることがありますのでご注意ください。
- *プレビューセンターでお預かりしたデータは、学会終了後、運営事務局が責任をもって一括消去いたします。
- *メディアを介したウイルス感染の事例がありますので、最

新のウイルス駆除ソフトでチェックをお願い致します。

◆ポスターセッションについて

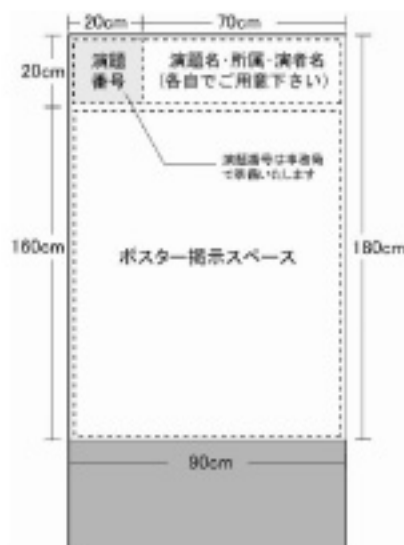
- ポスター貼付時間内に、ポスター会場受付にて、演者用リボン（黄色）を受け取り、ポスターを貼付して下さい。
- 発表10分前までには、演者用リボンを着用し、ご自身のポスターの前に待機して下さい。
- ポスターパネルは下記のように縦160cm、横90cmです。貼付スペースにポスターを掲示して下さい。
- 演題名、所属、演者名はご準備下さい。演題番号は事務局にて準備致します。
- 貼付用の押しピンは事務局で用意します。
- セッション終了後、ポスターは撤去時間内に必ず各自撤去して下さい。学会終了後、会場に残ったポスターは事務局で処分しますので予めご了承ください。

ポスター貼付：

4月26日(木)
7：30～

ポスター撤去：

4月28日(土)
17：00～18：00



◆座長の皆様へ

- 口演座長
発表時間、質疑応答時間を厳守し、円滑な運営にご協力をお願いします。

セッション開始15分前までには会場右手最前列の次座長席にお越しの上、進行係に声を掛けて下さい。

●ポスターセッション座長

セッション開始10分前までにポスター会場受付にお越し下さい。尚、受付場所は会場によって異なります。ご出席を確認し、座長用リボン(赤色)をお渡ししますのでセッション開始前に着用して下さい。特に進行係はおりませんので、セッション開始時間になりましたら、各自ではじめて下さい。進行は一任しますが、セッション終了時間は厳守して下さい。

第51回日本リウマチ学会総会・学術集会 プログラム委員会

委員長

竹内 勲
埼玉医科大学
総合医療センター
リウマチ・膠原病内科



副委員長

勝呂 徹
東邦大学
医学部整形外科



澤田 滋正
日本大学
医学部付属
練馬光が丘病院内科



委員

※五十名超



石黒 直樹
名古屋大学大学院
医学系研究科整形外科



猪俣 茂子
国立病院
アレルギー膠原病科



岡田 保典
慶応義塾大学
医学部病理学教室



尾崎 承一
聖マリアンナ医科大学
リウマチ・膠原病・
アレルギー内科



川合 貞一
東邦大学
医療センター大森病院
膠原病科



小池 隆夫
北海道大学大学院
医学研究科病態内科学講座・
第二内科



小安 重夫
慶応義塾大学
医学部微生物学・免疫学



齊藤 聖二
東京女子医科大学
膠原病リウマチ
痛風センター



齋藤 知行
横浜市立大学
整形外科



澤井 高志
聖手医科大学
病理学第一講座



住田 孝之
筑波大学大学院
人間総合科学研究科
先端応用医学専攻臨床免疫学



高倉 義典
奈良県立医科大学
整形外科



高崎 芳成
順天堂大学
膠原病・リウマチ内科



武井 正美
日本大学
医学部血液膠原病内科



中川 研二
藤田保健衛生大学
整形外科



藤田 之彦
日本大学
医学部小児科



三浪 明男
北海道大学
医学部整形外科



三森 経世
京都大学大学院
医学研究科内科学講座



宮坂 信之
東京医科歯科大学大学院
歯科学総合研究科膠原病・
リウマチ内科学



村澤 暁
新潟県立
リウマチセンター



山中 寿
東京女子医科大学
膠原病リウマチ
痛風センター



山本 一彦
東京大学
医学部アレルギー
リウマチ内科



横田 俊平
横浜市立大学
医学部小児科学講座



関節リウマチ ~その内科的治療update~
Current understanding of therapeutic strategies for rheumatoid arthritis

田中 良哉 (産業医科大学医学部第一内科学講座 教授)

関節リウマチ(RA)は、関節滑膜炎を病変主座とする自己免疫疾患である。RAの発症早期から関節破壊が進行するため、早期の診断、治療が原則である。RAの治療は、消炎鎮痛作用を介してQOL改善を目的とする抗炎症薬を中心とした対症療法、及び、免疫制御による病態改善を目的とする抗リウマチ薬による根本療法の二本立てを基本とする。2002年米国リウマチ学会の治療基準では、診断3ヶ月以内の抗炎症薬と抗リウマチ薬による治療開始を勧告し、メトトレキサート(MTX)を標準的抗リウマチ薬とした。2007年欧州リウマチ会議からの提言でも、MTXを「アンカードラッグ(要の薬剤)」と位置づけた。しかし、抗リウマチ薬療法では治療抵抗例や関節破壊の進行制御には限界があり、病態形成に関与する特定の分子を標的とした生物学的製剤が導入された。本邦でも、抗TNF α キメラ抗体インフリキシマブとTNF受容体免疫グロブリン複合蛋白エタネルセプトが市販され、その結果MTXとTNF阻害療法の併用により、約3~5割の症例で寛解導入を可能とし、8割以上の症例で関節破壊の進行を抑制し、さらに、心血管障害の抑制により生命予後を改善した。即ち、MTXを「アンカードラッグ」としたTNF阻害療法は、ゴールドスタンダードとしてRAの治療目標にパラダイムシフトを齎した。以上、エビデンスに基づいたRA薬物療法のトレンドを概説する。



RA-その外科的治療-最近のトピックス
Surgical Treatment of Rheumatoid Arthritis - Current Topics

豊島 良太 (鳥取大学医学部整形外科 教授)

関節リウマチ(RA)の関節破壊は全身の滑膜関節に及び、関節の持つ可動性と支持性という機能が失われる。関節破壊が薬物治療やリハビリテーションによって防止できない場合に、外科的治療が考慮される。その対象は関節や脊椎、腱などで、滑膜切除術や人工関節置換術、関節固定術、脊椎减压・固定術などの方法が適用される。最も適用例の多い手術は人工関節置換術で、上肢では肘と肩関節、下肢では股と膝関節の人工関節の推奨度が高い(診断のマニュアルとEBMに基づく治療ガイドライン)。この推奨度は、外科的治療のRCTは倫理的に困難であるため、経験則に基づいたものである。保存療法(6か月以上)が無効で、持続性の痛みがあり、X線画像で中等度以上の関節破壊のある場合に適応となる。実際に適用される人工関節は膝関節(TKA)が最も多く、次いで股関節(THA)、肘関節、肩関節と続く(2005年リウマチ白書)。その成績は、THAとTKAでは良好で、白書によれば人工関節の成績は「よくなった」と回答した割合が92.0%で、滑膜切除術や関節固定術に比べて高い。しかし、合併症のため再置換術を14.7%が受けており、感染や痛み、静脈血栓塞栓症などの合併症を減らすための対策が講じられている。また、近年RA治療に生物学的製剤の導入が急速に進み、術後感染は増えるものと危惧される。しかし、その実施は明らかでなく、対策指針も確立されていない。

人工関節の適応と成績、合併症とその対策、生物学的製剤と骨関節の感染症について概説する。



SLE 最近の進歩
Recent advance in systemic lupus erythematosus

佐々木 毅 (NTT東日本東北病院 院長)

1. SLEの診断 SLEは特定疾患で、認定にはACR(厚生省)基準が用いられており診断にはこれが汎用されている。が、活動性および重症度診断等を行って始めて適切な対応が可能となる。
2. SLEの治療: (1)SLE治療はステロイド剤、特にプレドニゾロンを主体とする。が病態は個人差が大きく、治療も症例により著しく異なってくる。このために自己免疫研究より病態別治療指針が出されている。非活動期の治療も重要である。

心筋梗塞、メタボリック病、骨粗しょう症等を起こしやすいためである。

(2)SLEではRPGNらのループス腎炎、CNS障害、血栓症、出血性肺臓炎らの特有な難治性病態がある。これらの病態での治療としては大量のステロイド剤に加えてシクロフォスファミド、シクロスポリン、FK506(本年ループス腎炎に保険適応)、ミコフェノール酸モフェチルらの免疫抑制剤、大量ガンマグロブリン療法の有用性が示されてきている。また、生物学的製剤、特に抗CD20抗体(リツキサン)の有用性が注目されており、本邦でも治療が開始されている。

(3)重症合併症への対応 上記に加えてステロイド、免疫抑制剤使用に関連する感染症(日和見感染症、ウィルス感染症ら)、高サイトカイン血症を特徴とする血球貪食症候群(HPS)、あるいは血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)が発現することがある。いずれも予後不良の病態が生じるので早期診断、適切な対応が必要である。

3. SLEの病因、病態研究の進歩 SLEの特徴は多彩な自己抗体の出現であり、抗DNA抗体が病態形成の主役をなすとされている。この病的DNA抗体がストレス時に細胞内小胞体膜に出現するHerpにより誘発されうると指摘されている。SLEではT細胞レセプター異常が存在することも注目される。またSLEの発症との関連でSLE関連遺伝子、環境要因が検索されている。



強皮症の治療の進歩
Advances in the treatment of systemic sclerosis (SSc, scleroderma)

近藤 啓文 (北里研究所メディカルセンター病院 院長)

強皮症は皮膚硬化を主症状とする全身性疾患である。その病態は線維症、血管病変と慢性炎症で、諸臓器の病変はこれらの病態が組み合わさって形成されている。さらに、特異的な自己抗体が検出され、自己免疫機序が病態形成に関与していることが示唆される。

本症の薬物療法では疾患修飾性薬物として証明されたものはほとんどない。発症に免疫異常の関与が示唆されることから、

免疫抑制療法が試みられてきたが、対照試験で効果が証明されたものはほとんどなかった。最近、米国のグループはシクロホスファミドの経口投与が間質性肺炎の呼吸困難、肺機能、皮膚硬化及びQOLの改善にプラセボと比べ有意に効果があったと報告した。しかし、間質性肺炎を対象にしたシクロホスファミドの静注パルス療法では、プラセボとの間に有意差がなかったとの成績がヨーロッパから報告された。皮膚硬化などの線維症病変に対するステロイド薬大量、高用量免疫抑制療法、自家幹細胞移植療法の成績では、主に皮膚硬化を指標に有効であるとの報告はあるが、多数例での対照試験での証明は上記の報告以外にない。

一方、主に血管病変に基づく臓器病変に対しては、治療により予後を改善したとの報告がある。強皮症の肺動脈性肺高血圧症に対するプロスタサイクリン製剤(エポプロステノール)、エンドセリン受容体拮抗薬(ボセンタン)、シルデナフィルは有効であることが証明された。高血圧性腎クリーゼに対するACE阻害薬の有用性もコンセンサスが得られている。傾度が高い消化管病変にはもっぱら対症療法が行われるが、プロトンポンプ抑制薬は逆流性食道炎を有意に改善した。偽性腸閉塞には在宅での中心静脈栄養法が有用である。疾患修飾性治療薬の開発が待たれるが、それまでは症例ごとに病態を解明し、それに基づいて免疫抑制薬、対症療法薬を組み合わせて対処する必要がある。



全身性自己免疫疾患(膠原病)における難治性病態の診断と治療 Diagnosis and treatment of intractable organ involvements in systemic autoimmune diseases

三森 経世(京都大学大学院医学研究科臨床免疫学 教授)

膠原病はいわゆる「難病」を代表する疾患群であり、かつては不治の病とされていたが、近年膠原病の生存率は年代とともに向上してきている。このような生命予後の改善には、治療の進歩とともに、診断技術の向上による早期診断の進歩あるいは従来は見逃されていた軽症例の増加が関与していることは疑いがない。

しかしながら、全般的生命予後が向上する一方で、依然として治療法が確立していないために死亡率が高く、または重い障害を残すような病態が認められる。このために、膠原病の長期予後は必ずしも満足すべきものではなく、むしろ長期生存例が増えるにつれてかかる難治性病態が一層クローズアップされるようになった。このような難治性病態には、全身性エリテマトーデスの重症ループス腎炎、中枢神経症状、肺出血、強皮症の線維化病変、ステロイド抵抗性肺炎、皮膚肺炎に伴う急性間質性肺炎、混合性結合組織病に合併する肺高血圧症、結節性多発動脈炎などの血管炎症候群、劇症型抗リン脂質症候群、関節リウマチのアミロイドーシスなどが含まれる。

膠原病の生命予後とQOLを改善してより良いライフスタイルを確立するためには、このような難治性病態に対する有効な診断と治療法の開発が望まれる。膠原病にはステロイド薬を第一選択薬とする病態が多いが、まずその使い方に習熟することが要求される。ステロイドに抵抗する病態に対しては種々の免疫抑制薬が適応となるが、どの病態にどの薬剤を使用するかはエビデンスを重視すべきである。近年はさらに従来の治療法が無効の難治例に対する生物学的製剤などの新たな治療法も開発されている。講演では膠原病治療における様々な問題点を解説するとともに難治性病態に対する今後の展望についても述べたい。



ステロイド性骨粗鬆症の治療ガイドライン Guidelines for the prevention and treatment of glucocorticoid-induced osteoporosis

宗圓 聡(近畿大学医学部奈良病院整形外科リウマチ科 教授)

ステロイド性骨粗鬆症は続発性骨粗鬆症の中で最も傾度が高く、年齢、性、人種などと無関係に発症することや、より高い骨密度で骨折を起こすことが、原発性骨粗鬆症と異なる点である。経口ステロイドの使用量に応じて骨折リスクは増加することが示されている。そして、2.5mg未満といった少量でも椎体骨折のリスクは1.55倍存在することが明らかとなった。非椎体骨折とステロイド使用量の関係をみると、1日20mgを越すと急激に骨折リスクは増加するが、それ以下でもリスクは

ほぼ直線関係を示し、安全域の設定は困難であると考えられる。さらに、最近1日2.5mg以上の使用例では投与開始後わずか3~6ヶ月で骨折リスクは最大に達することも明らかとなった。

治療薬として明らかな骨折予防効果のエビデンスを有するのは、ビスフォスフォネート製剤である。最近、活性型ビタミンD₃にもビスフォスフォネート製剤より効果は劣るもののメタ解析により骨折予防効果があることが報告され、国内の縦断分析にてビタミンK₂にも骨折予防効果があることが示されている。

海外では1996年に米国リウマチ学会から初めてのステロイド性骨粗鬆症の予防・治療ガイドラインが出され、各国から新たなガイドラインおよび改訂がなされてきた。2005年、日本骨代謝学会から我が国のステロイド性骨粗鬆症の管理と治療ガイドラインが発表された。我が国のエビデンスとしては、既存椎体骨折を有する例では新規椎体骨折発生リスクのオッズ比が5~7以上であること、骨折からみた骨密度カットオフ値は%YAMでは80%であること、ただし、1日5mg以上の使用例では%YAMが91~110でも新規椎体骨折発生率は2年間で18%あることなどが挙げられ、これらが治療を考慮する条件とされた。第一選択薬剤はビスフォスフォネート製剤、第二選択薬剤は活性型ビタミンD₃、およびビタミンK₂とされる。



変形性関節症の病態と治療の最前線 Cartilage Degeneration in OA and Recent Advance in Therapy

山田 治基(藤田保健衛生大学整形外科 教授)

OAは高齢化社会においてQOL低下を来す傾度の高い疾患であり運動器のcommon diseaseとして医療経済的に重要性が高い。現在の疾患定義の下ではOAの発症には、加齢、肥満、外傷、遺伝など多数の病因が関与する臨床的に極めて多様性に富むであり基礎疾患のない一次OA(膝OAの多く)と白蓋形成不全などに起因する二次OA(本邦の股OAの多く)が同様に論じられている。OA病態は軟骨変性を初発病変とし骨・軟骨の修復反応と軟骨デブリスによる二次性滑膜炎によって修飾される。OAではII型のみならずIX,XI型コラーゲンやアグリカン、cartilage oligomeric matrix protein(COMP)などのマトリックス遺伝子変異が報告されている。これらの遺伝子変異により脆弱性をきたした軟骨にプロテアーゼが作用することによって軟骨破壊がおこることがOA病態のfirst stepである。プロテアーゼとしてmatrix metalloproteinase(MMP)、アグリカナーゼ-1,2(ADAMTS-4,5)などが知られているが関節リウマチと異なり軟骨細胞自身から主に産生される。OAの発症、進行における軟骨下骨の役割も注目されている。真の抗OA薬は疼痛などの臨床症状を改善するだけでなく軟骨破壊を抑制するもの(disease modifying drug)である。軟骨細胞を特異的に抑制するビスフォスフォネート製剤が動物OAモデルや一部の臨床試験で軟骨破壊抑制に有用であったとする報告がある。一時期競って開発されたMMPなどのプロテアーゼに対する阻害薬は筋痛などの副作用により治験が進んでいない。軟骨マトリックス成分であるグルコサミンにも一部で軟骨破壊抑制効果が報告されているが追加が必要である。有病率の高いOAに対する対策は単に発症例の治療だけでなく予防法、発症予知法の開発も重要である。

4月26日(木) 1日目

会 場		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	
会議センター	第1会場 (1F メインホール)	開 会 式	シンポジウム1 膠原病のリサーチベンチからベッドサイドへ -新たな挑戦- 座長：小池 隆夫/高崎 芳成					
	第2会場 (3F 301+302)		ワークショップ-1 関節リウマチの治療： エタネルセプト(1)	ワークショップ-2 関節リウマチの治療： エタネルセプト(2)			ランチョンセミナー2 DMARDs療法の最新の知見 座長：小松原良雄 演者：廣畑 俊成 高杉 潔	
	第3会場 (3F 303)		教育研修講演1 座長：大幸 俊三 演者：一盛 和世		教育研修講演2 座長：近藤 啓文 演者：T. Medsger		ランチョンセミナー3 RAに対するトシリ ズマブ療法 座長：岡田 保典 演者：西本 憲弘	
	第4会場 (3F 304)		シンポジウム3 リウマチ性疾患のリハビリテーション医療の体制 -QOLの改善のために- 座長：村澤 章/植野 泰明				ランチョンセミナー4 NSAIDsによる消化管 傷害の最新の知見 座長：織田 弘美 演者：平石 秀幸	
	第5会場 (5F 小ホール)		国際シンポジウム1 Recent progress in Surgery Chairs: Takashi Nakamura, Matthias Flury				ランチョンセミナー5 関節リウマチ新薬治療に おける感染症の現状と対策 座長：山田 昭夫 演者：山田 秀裕	
	第6会場 (5F 501)		教育研修講演5 座長：長澤 浩平 演者：C. W. Archer		特別講演1 座長：藤 順之助 演者：松野 誠夫		ランチョンセミナー6 リウマチ上肢の画像 診断と治療戦略 座長：宮岡 英世 演者：西田圭一郎	
	第7会場 (5F 502)		ワークショップ-5 関節リウマチの治療： インフリキシマブ(1)	ワークショップ-6 関節リウマチの治療： インフリキシマブ(2)			ランチョンセミナー7 膠原病の難治性病変 と新たな治療 座長：山本 一彦 演者：高崎 芳成	
	第8会場 (3F 311+312)		ワークショップ-9 SLEの病因・病態(1)	ワークショップ-10 SLEの病因・病態(2)				
	第9会場 (3F 313+314)		ワークショップ-13 変形性関節症の病因・ 病態・臨床(1)	ワークショップ-14 変形性関節症の病因・ 病態・臨床(2)				
	第10会場 (4F 414+415)		ワークショップ-17 関節リウマチの治療： 白血球除去療法(1)	ワークショップ-18 関節リウマチの治療： 白血球除去療法(2)				
	第11会場 (4F 416+417)		ワークショップ-21 関節リウマチの経過と予後 予測因子(1)	ワークショップ-22 関節リウマチの経過と予後 予測因子(2)				
	第12会場 (4F 418)		ワークショップ-25 小児の膠原病(1)	ワークショップ-26 小児の膠原病(2)				
	第13会場 (4F 419)		ワークショップ-29 ANCA関連血管炎(1)	ワークショップ-30 ANCA関連血管炎(2)				(413) 奨学金受賞者 懇談会
ホ 展 ル 示	ポスター・機器展示会場 (1F 展示ホール A)		ポスター・機器展示					

※公演内容、時間等が変更されることがあります。会場にてご確認ください。

14:00		15:00		16:00		17:00		18:00		19:00	
シンポジウム2 生物学的製剤 -インフリキシマブとエタネルセプトの明と暗- 座長：竹内 勤/住田 孝之								イブニングセミナー1 座長：三森 経世/石黒 直樹 演者：山中 寿/竹内 勤 パネリスト：田中 良哉			
ワークショップ-3 関節リウマチの治療： エタネルセプト(3)			ワークショップ-4 関節リウマチの治療： エタネルセプト(4)								
教育研修講演3 座長：白井 俊一 演者：出井 章三			教育研修講演4 座長：澤田 滋正 演者：Y. Shoenfeld			授教育研修講演1 座長：横野 博史 演者：W. Berg /T. Huizinga					
シンポジウム4 Autoinflammatory syndromeの新たな展開 座長：横田 俊平/武井 修治								授教育研修講演2 座長：堀沢 俊一 演者：D. Eyre/M. Hochberg			
国際シンポジウム2 Recent progress in pathogenesis of RA Chairs: T.W.J. Huizinga, Kazuhiko Yamamoto				スカラーシップ枠セッション 座長：石黒 直樹 演者：山中 寿							
会長講演 座長：横野 富久 演者：横 順之助			教育研修講演6 座長：松井 宣夫 演者：M. Flury			イブニングセミナー2 膠原病における免疫抑制療法 -最新の知見- 座長：宮坂 信之 演者：川合 真一/田中 良哉					
ワークショップ-7 SLEの臨床(1)			ワークショップ-8 SLEの臨床(2)			イブニングセミナー3 整形外科手術におけるVTE マネジメント 座長：山本 精三 演者：二木 康夫/桂川 陽三					
ワークショップ-11 軟骨の安性と再生機序			ワークショップ-12 滑膜増殖と制御								
ワークショップ-15 関節リウマチ上肢の 手術療法(1)			ワークショップ-16 関節リウマチ上肢の 手術療法(2)								
ワークショップ-19 サイトカイン・ケモカイン (1)			ワークショップ-20 サイトカイン・ケモカイン (2)								
ワークショップ-23 関節リウマチの関節外病変 (1)			ワークショップ-24 関節リウマチの関節外病変 (2)								
ワークショップ-27 リウマチ性疾患の肺病変・ 肺高血圧症(1)			ワークショップ-28 リウマチ性疾患の肺病変・ 肺高血圧症(2)								
ワークショップ-31 リウマチ性疾患のQOLリハ ビリテーション・医療体制・ 病診連携(1)			ワークショップ-32 リウマチ性疾患のQOLリハ ビリテーション・医療体制・ 病診連携(2)								
				ポスター討論 P01~P13							

会員懇親会
18:30~20:30
インターコンチネンタルホテル
ボールルーム

会 場		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
会議センター	第1会場 (1F メインホール)		シンポジウム5 新たなる生物学的製剤-その現状と未来- 座長：宮坂 信之/尾崎 承一			ランチョンセミナー8 免疫抑制薬に併発する感染症にどう対処するか？ 座長：山中 秀 演者：渡辺 彰	
	第2会場 (3F 301+302)		ワークショップ-33 関節リウマチの治療： インフリキシマブ(3)	ワークショップ-34 関節リウマチの治療： インフリキシマブ(4)		ランチョンセミナー9 海外におけるリウマチ治療の最新情報 座長：三村 俊英 演者：S. Gay	
	第3会場 (3F 303)		シンポジウム7 関節軟骨の質性と再生機序 -再生医療は可能か？ 座長：巖田 良太/木村 友厚			ランチョンセミナー10 線維筋痛症と脊髄関節炎 座長：村上 正人 演者：浦野 勇三	
	第4会場 (3F 304)		ワークショップ-37 SLEの臨床(3)	ワークショップ-38 SLEの臨床(4)		ランチョンセミナー11 リウマチ性疾患でのSAAの臨床的意義 座長：澤田 滋正 演者：佐々木 毅	
	第5会場 (5F 小ホール)	Instructive Course Lecture 1 抗リウマチ薬 座長：山本 一彦	国際シンポジウム3 Recent progress in systemic autoimmune diseases Chairs: Takao Koike, Robert P. Kimberly			ランチョンセミナー12 Appropriate and effective management of RA 座長：松原 司 演者：J. Kalden	
	第6会場 (5F 501)	教育研修講演7 座長：澤井 高志 演者：S. Gay	教育研修講演8 座長：西本 昌弘 演者：G. Firestein		教育研修講演9 座長：岩本 幸英 演者：越智 隆弘	ランチョンセミナー13 RA薬物治療:ISSUES & SOLUTION 座長：江口 勝美 演者：竹内 勲	
	第7会場 (5F 502)	プレナリーセッション1 膠原病・基礎的研究(1) 座長：江口 勝美 吉崎 和幸	プレナリーセッション2 膠原病・基礎的研究(2) 座長：西岡久寿俊 森本 幾夫		Instructive Course Lecture 2 心の病 座長：村上 正人	ランチョンセミナー14 ヒアルロン酸による関節症治療 座長：藤野 富久 演者：石黒 直樹	
	第8会場 (3F 311+312)		ワークショップ-41 骨粗鬆症・骨代謝(1)	ワークショップ-42 関節リウマチの関節破壊機序			
	第9会場 (3F 313+314)		ワークショップ-45 関節リウマチの治療： シクロスポリンと タクロリムス(2)	ワークショップ-46 関節リウマチの治療： シクロスポリンと タクロリムス(3)			
	第10会場 (4F 414+415)		ワークショップ-49 関節リウマチの治療： 抗リウマチ薬、ステロイド、 NSAIDs等(1)	ワークショップ-50 関節リウマチの治療： 抗リウマチ薬、ステロイド、 NSAIDs等(2)		ランチョンセミナー15 関節リウマチ患者の骨髄質にどう対処すべきか？ 座長：豊島 良太 演者：橋本 淳	
	第11会場 (4F 416+417)		ワークショップ-53 その他の膠原病(1)	ワークショップ-54 その他の膠原病(2)		ランチョンセミナー16 RAの痛みと関節破壊のメカニズム 座長：近藤 正一 演者：岩本 幸英	
	第12会場 (4F 418)		ワークショップ-57 強皮症の臨床(1)	ワークショップ-58 強皮症の臨床(2)			
	第13会場 (4F 419)		ワークショップ-61 抗リウマチ抗体症候群	ワークショップ-62 多発性筋炎/ 皮膚筋炎の臨床(1)			
ホ 展 ル 示	ポスター・機器展示会場 (1F 展示ホール A)					ポスター・機器展示	

※公演内容、時間等が変更されることがあります。会場にてご確認ください。

	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
	シンポジウム6 各部位の人工関節の耐久性と問題点 -未来に向けて何年もたせるか- 座長：藤 原之助/藤田 敏					
	ワークショップ-35 関節リウマチの治療： エタネルセプト(5)	ワークショップ-36 関節リウマチの治療： その他の生物学的製剤			イブニングセミナー4 座長：宮坂 信之 演者：A. Gibofsky M. Genovese	
	シンポジウム8 新しいRA特異抗体抗CCP抗体の最近の進展 座長：澤田 滋正/山本 一彦			リウマチ手の外科研究会		
	ワークショップ-39 関節リウマチの治療： メトトレキサートと レフルノミド	ワークショップ-40 関節リウマチの治療： シクロスポリンと タクロリムス(1)				
	国際シンポジウム4 Recent progress in targeted therapy Chairs: Tsutomu Takeuchi, Steffen Gay		スカラーシップ枠セッション 座長：山本 一彦 演者：木村 友厚			
会	授賞式・受賞講演等					
	特別講演2 座長：越智 隆弘 演者：高久 史麿	教育研修講演10 座長：橋本 博史 演者：小池 隆夫				
	ワークショップ-43 関節リウマチの 病態解析(1)	ワークショップ-44 関節リウマチの 病態解析(2)				
	ワークショップ-47 関節リウマチ股関節 の手術療法	ワークショップ-48 関節リウマチ膝関節 の手術療法(1)				
	ワークショップ-51 関節リウマチの早期診断	ワークショップ-52 関節リウマチの画像診断(1)				
	ワークショップ-55 その他の膠原病(3)	ワークショップ-56 その他の膠原病(4)				
	ワークショップ-59 強皮症の臨床(3)	ワークショップ-60 シェーンゲン症候群の 病因・病態			イブニングセミナー5 座長：藤 原之助 演者：斎藤 修/清滝 信正/ 清水 一郎/石井 隆雄/ 西郷崇一郎/森 聖	
	ワークショップ-63 多発性筋炎/ 皮膚筋炎の臨床(2)	ワークショップ-64 多発性筋炎/ 皮膚筋炎の病理学		(411) JCR国際顧問団と JCR国際委員長との合同会議		
			ポスター討論 P14~P25			

会 場		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
会議センター	第1会場 (1F メインホール)		シンポジウム9 生物学的製剤を中心に -内科医と整形外科医の言い分と連携- 座長：井上 和彦/高杉 潔				ランチョンセミナー17 Biologic Therapy of Rheumatoid Arthritis 座長：竹内 勲 演者：A. Gibofsky
	第2会場 (3F 301+302)		シンポジウム11 リウマチ性疾患の遺伝子解析と治療への応用 座長：鎌谷 直之/増沢 俊一				ランチョンセミナー18 リウマチ治療における白 血球除去療法の位置付け 座長：須藤 茂子 演者：常岡 重人 小山 秀伸
	第3会場 (3F 303)		ワークショップ-65 関節リウマチの治療： インフリキシマブ(5)	ワークショップ-66 関節リウマチの治療： インフリキシマブ(6)			ランチョンセミナー19 最近の膠原病合併高 血圧症の診断と治療 座長：吉田 俊治 演者：田中 佳明
	第4会場 (3F 304)		ワークショップ-69 関節リウマチ膝関節の手術 療法(2)	ワークショップ-70 関節リウマチの足の 治療法			ランチョンセミナー20 人工股関節置換術 の進歩と課題 座長：松井 重夫 演者：飯田 寛和
	第5会場 (5F 小ホール)	Instructive Course Lecture 3 変形性関節症 座長：黒澤 尚	国際シンポジウム5 Recent progress in cartilage research and OA Chairs: Tomoatsu Kimura, David Eyre				ランチョンセミナー21 関節リウマチの治療 座長：住田 孝之 演者：川人 豊
	第6会場 (5F 501)	プレナリーセッション3 RAの薬物療法 座長：橋本 博史 阿部 達	プレナリーセッション4 膠原病の病態解析 座長：立石 博臣 岩田 久	教育研修講演11 座長：尾崎 承一 演者：R.J. Looney			ランチョンセミナー22 ステロイド性を含む骨粗 鬆症に対する最新の治療方針 座長：田中 良哉 演者：宗園 暁
	第7会場 (5F 502)	教育研修12 座長：廣畑 俊成 演者：R. Kimberly	教育研修13 座長：狩野 庄吾 演者：江口 啓美	Instructive Course Lecture 5 繊維筋痛症 座長：西岡久寿樹			ランチョンセミナー23 変形性関節症に対する薬物 療法のエビデンスと新薬開 座長：藤呂 敏 演者：久保 俊一
	第8会場 (3F 311+312)		ワークショップ-74 関節リウマチに対する手術 療法の合併症対策	ワークショップ-75 血管炎症候群(1)			
	第9会場 (3F 313+314)		ワークショップ-78 関節リウマチの 病態解析(3)	ワークショップ-79 関節リウマチの 病態解析(4)			
	第10会場 (4F 414+415)		ワークショップ-82 その他の自己抗体	ワークショップ-83 生物学的製剤と手術			ランチョンセミナー24 日本人に適した人工 膝関節置換術とは？ 座長：宗田 大 演者：長嶺 隆二
	第11会場 (4F 416+417)		ワークショップ-86 関節リウマチの治療： シクロスポリンと タクロリムス(4)	ワークショップ-87 関節リウマチの 関節外病変(3)			
	第12会場 (4F 418)		ワークショップ-90 シェーングレン症候群の 臨床	ワークショップ-91 IgG4と自己免疫疾患			
	第13会場 (4F 419)		ワークショップ-94 その他の膠原病(5)	ワークショップ-95 その他の膠原病(6)			
ホ 展 ル 示	ポスター・機器展示会場 (1F 展示ホール A)						ポスター・機器展示

※公演内容、時間等が変更されることがあります。会場にてご確認ください。

14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
シンポジウム10 関節リウマチの新たな治療ターゲット ～生物学的製剤を超えて～ 座長：三森 雄世/田中 良哉				特別講演5 座長：藤 順之助 演者：渡辺 淳一	閉 会 式
シンポジウム12 関節リウマチの関節破壊機序の最新の知見 座長：石黒 直樹/楠田 弘美					
ワークショップ-67 関節リウマチの治療： インフリキシマブ(7)	ワークショップ-68 SLEの臨床(5)				
ワークショップ-71 骨粗鬆症・骨代謝(2)	ワークショップ-72 骨粗鬆症・骨代謝(3)				
Instructive Course Lecture 4 RAに伴う骨粗鬆症 座長：豊島 良太	ワークショップ-73 リウマチ性疾患の 遺伝解析				
特別講演3 座長：岩本 幸英 演者：山室 隆夫	特別講演4 座長：藤 順之助 演者：魂下 一郎				
教育研修講演14 座長：中村 孝志 演者：池川 志郎	教育研修講演15 座長：米延 策雄 演者：戸山 芳昭				
ワークショップ-76 血管炎症候群(2)	ワークショップ-77 血管炎症候群(3)				
ワークショップ-80 動物モデルでの 関節炎の解析(1)	ワークショップ-81 動物モデルでの 関節炎の解析(2)				
ワークショップ-84 ループス腎炎	ワークショップ-85 CNSループス				
ワークショップ-88 関節リウマチの 画像診断(2)	ワークショップ-89 抗CCP抗体、CARF、 MMP-3				
ワークショップ-92 動物モデルでの自己免疫疾 患の解析(1)	ワークショップ-93 動物モデルでの自己免疫疾 患の解析(2)				
ワークショップ-96 その他の膠原病(7)	ワークショップ-97 その他の膠原病(8)				
			ポスター討論 P26～P41		

JCR2007 特集

4月29日(日) 4日目

会 場		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	
会議センター	第1会場 (1F メインホール)							
	第2・3会場 (3F 301~304)	アニュアルコース レクチャー1 座長：吉田 俊治 演者：田中 良哉	アニュアルコース レクチャー2 座長：中村 耕三 演者：豊島 良太	アニュアルコース レクチャー3 座長：高崎 芳成 演者：佐々木 毅	アニュアルコース レクチャー4 座長：原 まさ子 演者：近藤 啓文		ランチョン 関節リウマチ(RA) and/or drugとして 座長： 演者：	
	第5会場 (5F 小ホール)							
	第6会場 (3F 501)			コメディカル 合同シンポジウム			ランチョン 上皮細胞 点からみた 座長： 演者：	
ホ ー ル 展 示	ポスター機器展示会場 (1F 展示ホール A)	機器展示会場						

ポスターセッション一覧 (ポスター・機器展示会場 1F展示ホールA)

4月26日(木) 15:40~16:50

セッションNo.	セッション名
P01	サイトカイン・ケモカイン
P02	関節リウマチの病態解析
P03	関節炎と関節破壊機序
P04	関節リウマチの治療：シクロスポリンとタクロリムス
P05	関節リウマチの治療：その他のDMARDs
P06	関節リウマチの治療：白血球除去療法
P07	関節リウマチの治療：抗リウマチ薬、ステロイド、NSAIDs等(1)
P08	関節リウマチの治療：抗リウマチ薬、ステロイド、NSAIDs等(2)
P09	関節リウマチの治療：インフリキシマブ(1)
P10	関節リウマチの治療：インフリキシマブ(2)
P11	関節リウマチの治療：エタネルセプト(1)
P12	関節リウマチの治療：エタネルセプト(2)
P13	関節リウマチの治療：その他の生物学的製剤

4月27日(金) 16:10~17:20

セッションNo.	セッション名
P14	関節リウマチの経
P15	関節リウマチの関
P16	SLEの臨床(1)
P17	SLEの臨床(2)
P18	多発性筋炎/皮膚
P19	強皮症の臨床
P20	シェーグレン症候
P21	IgG4と自己免疫
P22	小児の膠原病
P23	リウマチ性疾患の
P24	血管炎症候群
P25	ANCA関連血管炎

《主な会議日程》

名 称	日 時	会 場
理 事 会	4月25日 13:00~16:00	会議センター 4階 411 会議室
評議員会	4月25日 16:30~18:30	会議センター 3階 301 (第2会場)
総 会	4月27日 12:45~13:30	会議センター 5階 501 (第6会場)

《国際関連日程》

名 称	日 時	会 場
JCR奨学金受賞者懇談会	4月26日 12:00~13:00	会議センター 4階 413
JCR国際顧問団とJCR 国際委員会との合同会議	4月27日 17:30~19:30	会議センター 4階 411
スカラシップ枠セッション	4月26日 15:30~17:00 4月27日 15:30~17:30	会議センター 5階 小ホール(第5会場)

※公演内容、時間等が変更されることがあります。会場にてご確認ください。

	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
		市民公開講座 座長：藤 巖之助/山本 一彦 演者：長島真理子/山中 寿/川合 真一/ 藤呂 敏/村澤 章				
セミナー25 膝における QMR/トクト 井上 和彦 鈴木 康夫		アニュアルコース レクチャー5 座長：竹内 勲 演者：三森 経世	アニュアルコース レクチャー6 座長：鈴木 康夫 演者：宗園 謙	アニュアルコース レクチャー7 座長：齋藤 知行 演者：山田 治基		
セミナー26 傷害の視 膠原病節 小池 隆夫 藤田 次郎						

4月28日(土) 16:10~17:20

過と予後予測因子
節外病変
筋炎/その他の臨床
群の臨床
疾患
肺病変・肺高血圧症

セッションNo.	セッション名
P26	その他の膠原病(1)
P27	その他の膠原病(2)
P28	その他の膠原病(3)
P29	その他の膠原病(4)
P30	関節リウマチの画像診断
P31	抗CCP抗体、CARF、MMP-3、その他
P32	動物モデルでの自己免疫疾患の解析
P33	自己免疫疾患とシグナル伝達/自己免疫疾患と感染
P34	リウマチ性疾患の遺伝子解析
P35	変形性関節症の病因・病態・臨床
P36	関節リウマチの脊椎病変と手術療法
P37	関節リウマチ膝関節の手術療法
P38	関節リウマチの手術療法
P39	関節リウマチの上肢病変、その他
P40	骨粗鬆症・骨代謝
P41	リウマチ性疾患のQOL・リハビリテーション・医療体制・病診連携

《その他日程》

名称	日時	会場
学会夕食会	4月25日 19:00~21:00	横浜市内
会員懇親会	4月26日 18:30~20:30	インターコンチネンタルホテルボールルーム

学会夕食会(1万円)、会員懇親会(3千円)は会費制となっております

◆コメディカル合同シンポジウム

日時：4月29日(日) 10:00~12:00
 会場：パシフィコ横浜5F 第6会場(501)
 共催：日本RAのリハビリ研究会
 テーマ：医療制度変革に対応するRAのリハビリテーション

◆市民公開講座

日時：4月29日(日) 14:00~16:00
 会場：パシフィコ横浜1F 第1会場(メインホール)
 参加費：無料
 主催：第51回(中)日本リウマチ学会総会・学術集会
 テーマ：新しい関節リウマチの治療—リウマチとの闘いの
 経験と患者さんへのアドバイス—
 問い合わせ先：コングレ内 今仲・鈴木
 TEL: 03-5216-5318 FAX: 03-5216-5552
 E-mail: jcr2007@congre.co.jp



第16回 国際リウマチシンポジウム
The 16th International Rheumatology Symposium
April 26-28, 2007 Pacifico Yokohama

日 時：2007年4月26日(木) 09:00~11:30、13:30~15:30
 2007年4月27日(金) 09:00~11:30、13:30~15:30
 2007年4月28日(土) 09:00~11:30

会 場：パシフィコ横浜、5階 第5会場 (503、小ホール)

単 位：5単位

主 催：有限責任中間法人 日本リウマチ学会 (JCR)

執行機関：JCR国際委員会 (竹内勤委員長)
 第16回JCR国際リウマチシンポジウム運営事務局
 c/o JCR国際委員会事務局気付

参加申込：24ページ事前参加申込書 (または学会ホームページからダウンロード) に必要事項を記入の上、学会事務局までメールまたはFAXで送付。

Program :

International Symposium 1 : April 26 Thu. 9:00~11:30
Recent Progress in Surgery Chairs: Takashi Nakamura, Matthias Flury

Prof. Matthias P. Flury

Department of Upper Extremity and Hand Surgery, Schulthess Clinic, Zuerich

"Recent Progress in Surgery for Rheumatoid Shoulder and Elbow Reconstruction"

————— Surgery for rheumatoid elbow & shoulder

Prof. Dae Kyung Bae

Department of Orthopaedic Surgery, School of Medicine, Kyung Hee University, Seoul

"Total Knee Arthroplasty in Rheumatoid Arthritis"

————— Surgery for rheumatoid knee

Prof. Hajime Ishikawa

Department of Rheumatology (Orthopaedic Surgery), Niigata Rheumatic Center, Niigata

"Surgery for Rheumatoid Hand"

————— Surgery for rheumatoid hand

Prof. Takeo Matsuno

Dept. Orthop. Asahikawa Medical College, Hokkaido

"Surgery for Rheumatoid Hip - Long-term Clinical Results of Hybrid total Hip Arthroplasty"

————— Surgery for rheumatoid hip

Prof. Kazuo Yonenobu

Osaka-Minami Medical Center, Osaka Rosai Hospital, Osaka

"Surgery for Rheumatoid Spine. Indications, Timing and Procedures"

————— Surgery for rheumatoid spine

International Symposium 2 : April 26 Thu. 13:30~15:30
Recent Progress in Pathogenesis of RA Chairs: Tom W.J. Huizinga, Kazuhiko Yamamoto

Prof. Tom W.J. Huizinga

Department of Rheumatology, Leiden University Medical Center, Leiden

"Progress in Understanding the Pathogenesis of RA by Identifying Genetic Risk Factors"

————— RA genetics-Europe

Prof. Kazuhiko Yamamoto

Department of Allergy and Rheumatology, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, and Laboratory for Rheumatic Diseases, SNP Research Center, RIKEN, Japan

"Genome-wide SNP Analyses of Rheumatoid Arthritis and the Ethnic Differences"

————— RA genetics-Japan

Prof. Per-Johan Jakobsson

Karolinska Biomic Center, Rheumatology Unit, Department of Medicine, Karolinska Institutet, 171 76 Stockholm

"Microsomal prostaglandin E synthase and rheumatoid arthritis"

————— RA environment

Prof. Wim B van den Berg

Rheumatology Research and Advanced Therapeutics, Radboud University Nijmegen Medical Center, Nijmegen

"T CELL IL-17 and Toll Like Receptors in Arthritis and Joint Erosion"

————— RA experimental model

Prof. Raphael Hirsch

Division of Rheumatology, Children's Hospital of Pittsburgh, University of Pittsburgh, School of Medicine, Pittsburgh

"FSTL-1, a Novel Proinflammatory Molecule in Arthritis"

————— JIA

International Symposium 3 : April 27 Fri. 9 : 00~11 : 30

Recent Progress in Systemic Autoimmune Diseases Chairs: Takao Koike, Robert P. Kimberly

Prof. Robert P. Kimberly

Department of Medicine, Division of Clinical Immunology and Rheumatology, The University of Alabama at Birmingham, Birmingham
"Time to Renal Disease and End-Stage Renal Disease in PROFILE: A Multiethnic Lupus Cohort"
 _____ SLE genetics

Prof. Shoenfeld Yehuda

Department of Medicine 'B' & Center for Autoimmune Diseases, Sheba Medical Center, Incumbent of the Laura Schwarz-Kipp Chair for Research of Autoimmune Diseases, Sackler Faculty of Medicine, Tel-Aviv University
"To smell Autoimmunity: SLE-CNS involvement"
 _____ CNS lupus

Prof. Takao Koike

Department of Medicine II, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Hokkaido
"Antiphospholipid Antibodies and cell Activation"
 _____ Anti-PL syndrome

Prof. Frederick W. Miller

National Institutes of Health, Bethesda
"Recent Progress in Polymyositis and Dermatomyositis"
 _____ PMDM

Prof. Thomas A Medsger Jr.

University of Pittsburgh School of Medicine, Pittsburgh
"The Importance of Serum Autoantibody Subsets in Systemic Sclerosis"
 _____ SSc

International Symposium 4 : April 27 Fri. 13 : 30~15 : 30

Recent Progress in Targeted Therapy Chairs: Tsutomu Takeuchi, Steffen Gay

Prof. Steffen Gay

University Hospital of Zurich, Zurich
"TNF inhibitors on cardio-vascular diseases"
 _____ TNF inhibitors

Prof. Yoshiya Tanaka

Department of Internal Medicine 1, School of Medicine, University of Occupational & Environmental Health, Japan, Kitakyushu
"TNF Inhibitors in Japan"
 _____ TNF inhibitors in Japan

Prof. Norihiro Nishimoto

Laboratory of Immune Regulation, Graduate School of Frontier Biosciences, Osaka University, Osaka
"IL-6 Inhibitors"
 _____ IL-6 inhibitors

Prof. Mark C. Genovese

Stanford University Medical Center, CA
"Abatacept (CTLA4-Ig) for the treatment of Rheumatoid Arthritis"
 _____ CTLA4

Prof. R. John Looney

University of Rochester, New York
"Targeting B cells in SLE"
 _____ Rituximab

International Symposium 5 : April 28 Sat. 9 : 30~11 : 30

Recent Progress in Cartilage Research and OA Chairs: Tomoatsu Kimura, David Eyre

Prof. Charles W. Archer

Cardiff Institute of Tissue Engineering and Repair, School of Biosciences, Cardiff University, Cardiff
"The Role of Chondrogenitors in Articular Cartilage Growth and Maintenance"
 _____ Development of articular cartilage

Prof. Hiroshi Kawaguchi

Department of Sensory & Motor System Medicine, Faculty of Medicine, University of Tokyo, Tokyo
"Molecular Basis of Osteoarthritis from Mouse Genetics Approaches"
 _____ Molecular basis of OA insights from mouse genomics

Prof. Yasunori Okada

Department of Pathology, School of Medicine, Keio University, Tokyo
"ADAM12 is Overexpressed by Chondrocytes and Involved in Chondrocyte Proliferation in Osteoarthritic Cartilage"
 _____ Cartilage matrix degradation in OA

Prof. David R. Eyre

University of Washington, Dept. of Orthopaedics and Sports Medicine, Seattle
"Collagen Degradation Products as Biomarkers of Cartilage Metabolism and Joint Disease"

Prof. Marc C Hochberg

Division of Rheumatology and Clinical Immunology, Department of Medicine, University of Maryland School of Medicine, Baltimore, Maryland
"Management of Osteoarthritis: Current Recommendations and Future Opportunities"
 _____ Progress of therapy for OA



“A Promise for Life”

—Turning Science into Caring—

アボットジャパンは、
1977年、関節リウマチに適応のある薬剤を上市以来、
RA治療の研究開発に取り組んでいます。
“患者さんにより良い生活を・・・”
アボットジャパンの願いは、これからも続いていきます。



アボット ジャパン株式会社

本社 東京都港区六本木1-9-9
医薬品事業部本社 大阪市中央区城見2-2-53

 **Abbott**
A Promise for Life



JCR2007



第51回日本リウマチ学会総会・学術集会
第16回国際リウマチシンポジウム

The 51st Annual General Assembly and Scientific Meeting of
Japan College of Rheumatology
The 16th International Rheumatology Symposium

リウマチ学会2007

会長 龍 順之助 [日本大学医学部整形外科 主任教授]

次なる半世紀に向けて

リウマチの病態解明と治療の新たな挑戦

2007年4月26日[木] - 29日[日]

April 26-29, 2007

パシフィコ横浜

Yokohama, JAPAN

事務局

日本大学医学部整形外科学教室 〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町30-1 TEL: 03-3972-8111 (内線2492) FAX: 03-5986-8644

会場へのアクセス&ホテルガイドマップ

■ホテルリスト

No.	ホテル名 (チェックイン/アウト)	料金(1室あたり)		住所 / 電話
		シングル 1名様1室利用	ツイン 2名様1室利用	
1	パンパシフィック ホテル横浜 (14:00/11:00)	*27,300円	35,700円	〒220-8543 横浜市西区みなとみらい2-3-7 電話: 045-682-2222 会場まで徒歩2分
2	横浜グランドインター コンチネンタルホテル (14:00/11:00)	**23,100円 (4/25,26) 25,200円 (4/27) 32,550円 (4/28,29)	23,100円 (4/25,26) 27,300円 (4/27) 39,900円 (4/28,29)	〒220-8522 横浜市西区みなとみらい1-1-1 電話: 045-223-2222 会場に隣接
3	横浜ロイヤルパーク ホテル (14:00/12:00)	16,800円 (4/25,26) 23,625円 (4/27) 29,400円 (4/28,29)	25,200円 (4/25,26) 31,500円 (4/27) 39,900円 (4/28,29)	〒220-8173 横浜市西区みなとみらい2-2-1-3 電話: 045-221-1111 会場まで徒歩5分
4	横浜桜木町 ワシントンホテル (14:00/10:00)	11,550円 (4/25,26,27,28) 14,175円 (4/28)	17,850円 (4/25,26,27,28) 25,200円 (4/28)	〒231-0062 横浜市中区桜木町1-1-67 電話: 045-683-3111 会場まで徒歩15分
5	ブリーズベイ ホテル (14:00/12:00)	11,500円	19,000円	〒231-0063 横浜市中区花咲町1-2-2 電話: 045-253-5555 会場まで徒歩15分
6	ナビオス横浜 (14:00/10:00)	9,450円 (4/25,26) 11,550円 (4/27,28,29)	17,850円 (4/25,26) 22,050円 (4/27,28,29)	〒231-0001 横浜市中区新港2-1-1 電話: 045-633-6000 会場まで徒歩10分
7	三愛横浜ホテル (14:00/10:00)	8,715円 (4/25,26,27) 9,765円 (4/28,29)	15,330円 (4/25,26,27) 16,380円 (4/28,29)	〒231-0063 横浜市中区花咲町3-95 電話: 045-242-4411 会場まで徒歩18分
8	横浜平和プラザホテル (16:00/10:00)	7,980円	11,760円	〒231-0055 横浜市中区太田町5-65 電話: 045-212-2333 みなとみらい線高車道駅 徒歩1分

◆上記料金は1室1泊あたりの料金(朝食付・サービス料・税金込)です。
◆*はツインまたはダブルルームのおひとり様利用となります。

◆お申込方法

オンラインにて受付中 (2007年4月1日まで)。
申込みページ⇒<http://www.congre.co.jp/jcr2007/index.html>

◆宿泊に関するお申込およびお問い合わせ先

(株) JTBグローバルマーケティング&トラベル
「第51回日本リウマチ学会総会・学術集会」係 (CD100757-129)
営業時間: 9:30~17:30 (除 土日および祝祭日)
〒140-8604 東京都品川区東品川2-3-11
電話: (03)5796-5445 FAX: (03)5495-0685
Email: jcr2007@jtb.jp

会場へのアクセス& ホテルガイドマップ

- ① パンパシフィックホテル横浜
- ② 横浜グランドインターコンチネンタルホテル
- ③ 横浜ロイヤルパークホテル
- ④ 横浜桜木町ワシントンホテル
- ⑤ ブリーズベイホテル
- ⑥ ナビオス横浜
- ⑦ 三愛横浜ホテル
- ⑧ 横浜平和プラザホテル



交通案内

電車で 新幹線で	渋谷駅	東急東横線・特急→みなとみらい線 (東急東横線・みなとみらい線直通運転)	30分	みなとみらい駅	徒歩	3分
	新宿駅	JR湘南新宿ライン	29分	みなとみらい線 3分 (東急東横線直通)	「クイーンズスクエア 横浜連絡口」より エスカレーターを 乗継ぎ「2F」へ	
電車・新幹線で	東京駅	JR東海道線	25分	横浜駅	タクシー 7分	
	品川駅	京浜急行・快速特急	15分		(東口ポルタ地下2Fより)	
	新横浜駅	JR横浜線 3分 菊名駅 東急東横線 6分 (みなとみらい線直通 みなとみらい駅まで10分)	3分	JR京浜東北線 3分	徒歩	12分
		JR横浜線 (京浜東北線經由東神奈川駅乗り換え)	15分	桜木町駅	バス	7分
	横浜市営地下鉄	15分		タクシー	5分	

パシフィコ
横浜

飛行機で	成田空港	JR成田エクスプレス	90分	横浜駅	みなとみらい線 3分 (東急東横線直通)	みなとみらい駅	徒歩	3分
		リムジンバス (パシフィコ横浜行きは120分)	90分		「クイーンズスクエア 横浜連絡口」より エスカレーターを 乗継ぎ「2F」へ			
羽田空港		京浜急行	24分	YCAT （東口・17ターミナル） (横浜駅東口)	タクシー 7分			
		リムジンバス	30分		(東口ポルタ地下2Fより)			

■お車ご利用の場合

[東京方面より]

首都高速	横羽線 横浜公園方面	▶▶▶	横羽線みなとみらいランプ	約3分	▶▶▶
	湾岸線(鶴見つばさ橋、ベイブリッジ経由)横浜方面	▶▶▶	横羽線みなとみらいランプ	約3分	▶▶▶

[関西・中部方面より]

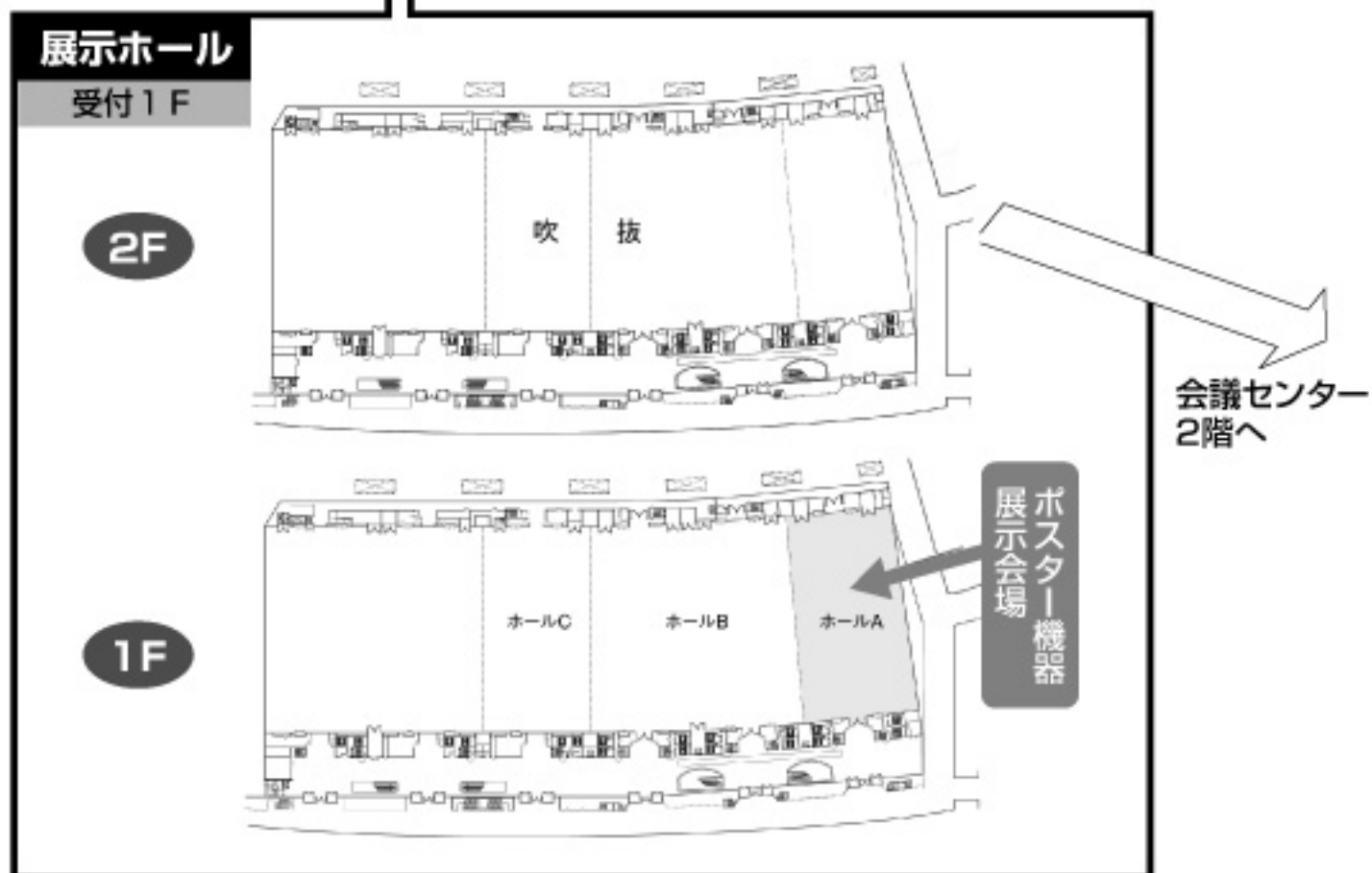
東名高速横浜町田IC	保土ヶ谷バイパス 狩場方面 約20分 ▶ 狩場IC ▶ 高速神奈川3号 狩場線横浜方面 約10分 ▶ 横羽線みなとみらいランプ 約3分 ▶
------------	---

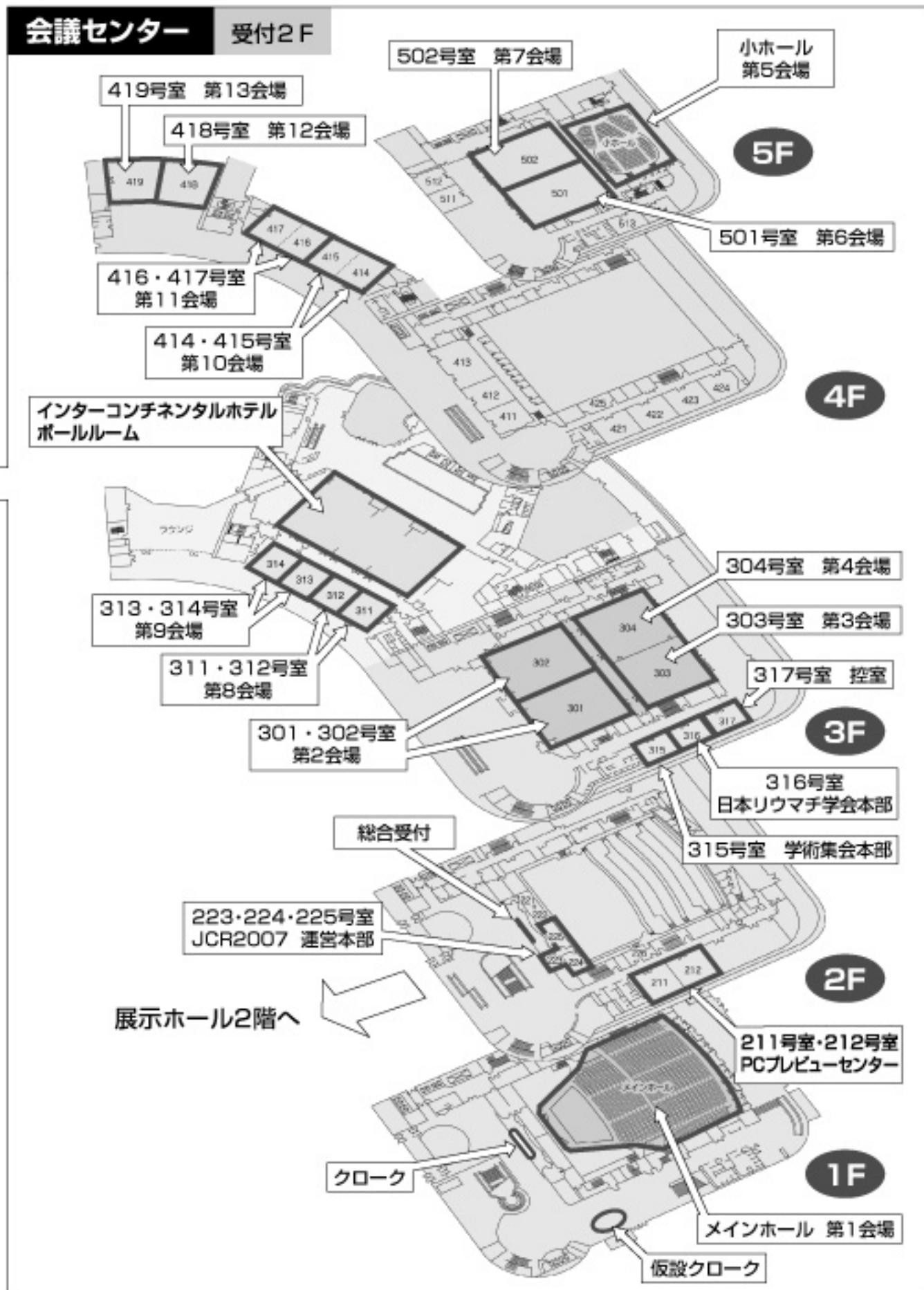
パシフィコ
横浜

■駐車場

P1 みなとみらい公共駐車場 ☎045-221-1301	1,200台(普通車)	24時間利用可	料金(30分): 260円	*平日割引18:00~23:00 最大1,300円 *深夜割引10:00~6:00 半額
P2 臨港パーク駐車場 ☎045-221-2175	100台(普通車)	10:00~21:00	料金(1時間): 500円	
P3 バス・大型車駐車場 ☎045-221-1302 (お問い合わせ10:00~21:00)	40台(バス・大型車)	24時間利用可 (入出庫は7:00~22:00)	料金(30分): 500円	*深夜割引12:00~7:00 半額

宿泊案内





第16回JCR国際リウマチシンポジウム 事前参加申込書

会の名称：第16回JCR国際リウマチシンポジウム
 開催日時：2007年4月26日(木)
 09：00～11：30、13：30～15：30
 2007年4月27日(金)
 09：00～11：30、13：30～15：30
 2007年4月28日(土)
 09：00～11：30
 プログラム：16ページ、または
<http://www.ryumachi-jp.com/english/symposium/index.html>に掲載
 会場：パシフィコ横浜、5階、小ホール、
 第5会場 503号
 単位：5
 主催：有限責任中間法人 日本リウマチ学会(JCR)
 執行機関：JCR国際委員会（竹内勲委員長）
 第16回JCR国際リウマチシンポジウム
 運営事務局 c/o JCR国際委員会事務局気付

2007年4月26日(木)～28日(土)にパシフィコ横浜で開催される
 第16回JCR国際リウマチシンポジウムに参加申込みます。

お名前： _____
 所属： _____
 専門領域： _____
 住所： _____
 連絡先 電話/FAX： _____
 E-mail： _____
 ご意見・お問い合わせ： _____

<必要事項を記入の上、下記までFAXまたはEメールでお送り下さい>

*事前参加申込は390名までで、申込受付証を事前に送付しますので、当日必ずご持参ください。

*参加申込確定者には、氏名、登録番号等が記載された参加証明書が当日会場で発行されます。

*専門医単位申請時には、この参加証明書の提出で、単位認定がなされます。また、当日会場でも参加証明や単位認定を受け付けます（5単位）。（専門医手帳をお持ちの方はご持参下さい）

JCRスカラシップ枠セッション 事前参加申込書

会の名称：スカラシップ枠セッション
 (SCH-1、SCH-2)
 開催日時：①SCH-1（座長：山本一彦、木村友厚）
 4月26日(木) 15：30～17：00
 発表予定者：中国、インドネシア、ノルウェイ、ポーランド、スイス、米国からのJCR奨学金受賞者9名
 ②SCH-2（座長：石黒直樹、山中 寿）
 4月27日(金) 15：30～17：30
 発表予定者：イラン、マレーシア、オーストラリア、フィリピン、インド、韓国、中国、セルビア、タイからJCR奨学金受賞者11名
 会場：パシフィコ横浜、5階、小ホール、
 第5会場 503号

お申込みセッション：

1. スカラシップ枠セッション (SCH-1) (参加・不参加)
2. スカラシップ枠セッション (SCH-2) (参加・不参加)

お名前： _____
 所属： _____
 専門領域： _____
 住所： _____
 連絡先 電話/FAX： _____
 E-mail： _____
 ご意見・お問い合わせ： _____

*世界14ヵ国から20名の新進気鋭の若手学者がJCR国際委員会の選考評価を受けて、奨学金受賞記念演題のプレゼンテーションをJCR2007で発表し、国内の若手研究者と議論を交わすセッションです。

<必要事項を右記申込書に記入の上、下記までFAXまたはEメールでお送り下さい>

*事前参加申込は390名までですが、当日会場でも、参加は可能です。

*事前参加申込者には、プログラム、発表予定内容等を事前にお送りします。

参加申込先

第16回JCR国際リウマチシンポジウム運営事務局 c/o JCR国際委員会気付 (JCR) 本部事務局
 〒105-0001東京都港区虎ノ門1-1-24 第一オカモトヤビル9階
 TEL：03-5251-5353 FAX：03-5251-5354 e-mail：gakkaim@ryumachi-jp.com



小安 重夫

慶應義塾大学医学部
微生物学・免疫学教室 教授

感染免疫学とリウマチ学との接点

理学部の学部と大学院で生化学の教育を受けた私がリンパ球と出会ったのは、東京都臨床医学総合研究所で研究者としてのスタートを切った1981年でした。

所属した研究室では細胞周期制御という細胞生物学の基本問題に取り組むため、刺激後の同調的な細胞増殖が可能で、かつ生理的条件に近い細胞としてリンパ球に注目しており、T細胞を材料として細胞周期制御を研究することが私のテーマになりました。しばらく経って、抗原刺激によるG0期からG1期への移行にかかわる細胞内シグナル伝達系とG1期からS期への移行すなわちDNA合成の開始にかかわるIL-2受容体からのシグナル伝達系が明確に区別できることを示した論文を生化学の専門誌に発表しましたが、この頃から自分の興味はT細胞による抗原認識という問題に移ってゆきました。当時はT細胞受容体の遺伝子構造が解明され、さらにMHCの3次元構造が明らかにされるなど、T細胞による抗原認識の仕組みが次々と明らかになる刺激的な時代でした。結局、米国ボストンへの留学をきっかけに本格的に免疫学者への道を歩むことになりました。抗原の中にも宿主に害をなす微生物由来の抗原もあれば、害がなく無視すればよいところを認識するがゆえに狭義のアレルギーの原因となるアレルゲン、さらに本来は自己寛容によって認識しないはずのものを標的とする自己免疫疾患における自己抗原、など様々なものがあります。T細胞の抗原認識には樹状細胞が大変重要ですが、様々な抗原に対して樹状細胞がどのようにふるまうか、そしてT細胞が全て同じように反応するかどうかは必ずしも明らかではありませんでした。8年にわたるボストンでの生活を終えて帰国した後は、免疫反応の入り口が比較的はっきりしている感染免疫を通して免疫反応を見ていこうと考え、T細胞のみならず樹状細胞にも注目して研究を進め、現在に至っております。

感染体は直接に、あるいは感染細胞を介して間接的に樹状細胞によって補足されます。感染体由来の物質をリガンドとするToll-like Receptor (TLR) を介した刺激で樹状細胞は成熟してリンパ節へ移動し、抗原特異的なT細胞を活性化します。重要な点は成熟した樹状細胞は強力なT細胞活性化能を獲得しますがTLR刺激を受けない未熟な樹状細胞にはT細胞活性化能はなく、むしろT細胞の機能を低下させ自己寛容を誘導する点です。この点から考えると、なぜ自己免疫疾患において自己抗原に特異的なリンパ球が活性化されるかは大きな謎です。これに対する答えとして、T細胞は常時活性化されているが通常は制御性T細胞 (Treg) が抑制するために問題にならず、Tregの機能異常が自己免疫反応に繋がるという可能性が議論されています。一方、樹状細胞の成熟による強い抗原提示という観点からは微生物感染をその起点とする可能性も捨てきれません。古くから微生物抗原と宿主抗原の類似性による自己免疫疾患の発症は疑われてきましたが、TLRを介した樹状細胞機能の制御機構が明らかになってきた今日、微生物感染と自己免疫疾患発症機構の関連性について真剣に研究を進める時期に来ているとの思いを強くしております。リウマチの分野もその例外ではないかも知れません。

各支部だより

(中)日本リウマチ学会 中国・四国支部



(中)日本リウマチ学会中国・四国支部では、平成17年4月から支部長は岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 腎・免疫・内分泌代謝内科学の横野博史が、副支部長は鳥取大学整形外科豊島良太教授で担当しております。現在、中国・四国支部の会員数は978名、評議員は93名であり、会員相互交流、学術活動の奨励等に勤めております。

第17回日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会(詳細は後述)の前日10月20日に運営委員会を開催し、今後の支部活動運営に関して議論頂きました。本年から学術集会活性化のため支部学術集会に若手奨励賞をもうけましたがその選定方法や本年度から開催されることとなった地域教育研修会の今後の運営方法など、より発展的な支部活動運営のための多くの方策が提案されました。

また、今年度から支部学術集会に連動し、リウマチ学の研修を目的に地域教育研修会が企画されました。第1回は支部学術集会の翌日(平成18年10月22日)徳島大学医学部長井記念ホールで開催し、支部内8名の演者による講演が行われ、66名の参加があり、日々の診療や研究に役立つものと好評でありました。

本年度の第18回日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会(会長:川崎医科大学整形外科三河義弘教授)は10月13日(土)倉敷市芸文館にて、また第2回地域教育研修会JCR中国・四国地域教育研修会も同日開催予定であります。今後も学術集会・教育研修会を通じて、中国・四国支部の活性化・連携を目指したいと考えております。

(文責:岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 腎・免疫・内分泌代謝内科学 横野博史)

*

第17回 日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会は平成18年10月21日(土)に徳島大学医学部臨床講堂において開催されました。徳島における本集会の開催は平成10年の第9回に続いて2度目となりましたが、中国四国各県から約180名の先生方にお集まりいただき、活発な学術集会となりました。

今回は関節リウマチ(RA)に対する治療をテーマに特別講

演を企画いたしました。特別講演Iでは筑波大学大学院人間総合科学研究科先端応用医学専攻臨床免疫学教授の住田孝之先生に「リウマチの内科的治療:DMARDsと生物学的製剤の使い方」と題して、RA患者の疾患活動性や進行度に応じたDMARDsと生物学的製剤の選択法と投与にあたっての注意点について、また、特別講演IIでは、東京女子医科大学東医療センター病院長、整形外科・教授の井上和彦先生に「RA治療における生物学的製剤と外科的治療の意義」と題して、整形外科医の立場からみた生物学的製剤投与のタイミングや外科的治療の最近の考え方についてご講演いただきました。さらに、現在強力な抗リウマチ治療やステロイド薬に伴って感染症の頻度とリスクが増していることから、ランチョンセミナーでは大阪大学医学部附属病院感染制御部教授の朝野和典先生に「リウマチ膠原病診療に必要な感染症の知識」という演題で、膠原病リウマチ診療における感染症の予防と治療についてのお話をいただきました。

一般演題は、例年以上の48題が集まり、RAに限らず膠原病および膠原病関連疾患全般に関して、珍しい症例、診断が困難であった症例あるいは膠原病にみられた難治性合併症についての発表がなされました。膠原病治療はまだまだエビデンスが不十分なまま試行錯誤な治療が行われている場合も少なくなく、そういった領域でエビデンスを築いていくためには今回のような学術集会での地道な症例報告の積み重ねが大切であると思っております。また、今回より優秀演題賞を設け、2名の発表者に賞が授与されました。最後になりましたが、今回の学術集会の運営にご協力いただきました運営委員の先生方をはじめ、ご参加いただいた皆様に御礼申し上げるとともに、今後の支部学術集会がさらに有意義なものになることを祈念いたします。

(文責:徳島大学大学院分子制御内科学 谷憲治)



Santen



Together

抗リウマチ剤

原価基準収載

創薬、特許医薬品、処方せん医薬品
[注意—医師等の処方せんにより使用すること]

メトレート錠2mg
Metolate[®] tablets 2mg

メトトレキサート錠

■[効能・効果]、[用法・用量]、[副作用]、[禁忌]を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照下さい。

抗リウマチ剤

原価基準収載

創薬、特許医薬品、処方せん医薬品
[注意—医師等の処方せんにより使用すること]

リマチル錠100mg
Rimatil[®] tablets 100mg

プサラミン100mg錠

創薬、特許医薬品、処方せん医薬品
[注意—医師等の処方せんにより使用すること]

リマチル錠50mg
Rimatil[®] tablets 50mg

プサラミン50mg錠

■[効能・効果]、[用法・用量]、[副作用]、[禁忌]を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照下さい。

抗リウマチ剤

原価基準収載

創薬医薬品、処方せん医薬品
[注意—医師等の処方せんにより使用すること]

アザルフィジンEN錠
Azulfidine[®] EN tablets

サラゾスルファピリジン500mg錠併製錠

創薬医薬品、処方せん医薬品
[注意—医師等の処方せんにより使用すること]

アザルフィジンEN錠250mg
Azulfidine[®] EN tablets 250mg

サラゾスルファピリジン250mg錠併製錠

■[効能・効果]、[用法・用量]、[禁忌]を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照下さい。

創薬研究
S 参天製薬株式会社
大塚市東町1-15-10 TEL: 3-59-19
資料請求先: 03-5955-1111 FAX: 03-5955-1112

創薬研究
S 参天製薬株式会社
大塚市東町1-15-10 TEL: 3-59-19
資料請求先: 03-5955-1111 FAX: 03-5955-1112

創薬研究
pfizer ファイザー株式会社
東京都港区六本木3-22-7

2006年11月作成
DMT.05KA4

各地域で活躍中の 若手医師の声



阿部 麻美 新潟リウマチセンター

リウマチ医を目指して

私は整形外科医となり、臨床経験を積んでから、すなわち歳をとってから大学院に入学、卒後にNew YorkのMount Sinai School of Medicine、VancouverのUniversity of British Columbiaにおりました。動物実験を主とする関節リウマチの基礎分野におりましたので、臨床の分野に戻り、自分が取得した知識を患者さんの治療に役立てたいという気持ちが大きくなっていきました。帰国後、2005年10月から関節リウマチの専門病院である、新潟県立瀬波病院（現新潟県立リウマチセンター）に勤務しております。

この病院は皆さんがご存じの通り、新潟県の関節リウマチの基幹病院であるだけでなく、全国各地から患者さんが集まってくる全国規模の病院です。着任当時は毎日が発見の連続で、自分の経験、知識の少なさを思い知ると同時に、リウマチ患者さんの治療の難しさを感じました。臨床だけでなく研究もしながら、スイスでの14th ERASS、ドイツでの日独リウマチ関節外科研究会での発表の機会を得、日本と海外での治療の違いやシステムの違いを知り勉強になりました。

そんな中、病院の移転という滅多に経験できない体験をしました。NYからVancouverは研究室の移転で国を跨いでの大陸横断でしたが、それとは全く規模が違い、全てが未経験の大事業でした。引っ越しするやいなや、第34回日本リウマチ関節外科学会の主催という、これまた大仕事が待ちました。しかし全国のリウマチ医と交流し、横のつながりを持つという、宝物のようなおまけ？を手に入れることができました。

病院移転後、どーんと新しい患者さんも増えてきて、外来も病棟も増えてきています。そんな中ですが、平行して新しい臨床研究の課題に向かってプロジェクトが始まっています。この病院ならではの莫大、膨大なデータから、今後の関節リウマチ診断、治療へのいとうちを見つめようとして格闘しております。現在ある常識を覆すような内容の発表機会を新潟県新発田市（しんはつたし、ではなくしばたし、です）で虎視眈々と狙っております。

旧新潟県立瀬波病院とは違い、温泉施設のまったが中の病院ではありませんが、日本初の県立リウマチセンターは新しい建物、新設備だけでなく、中で働く人、村澤院長以下、元気の医局員や看護師、コメディカルが日夜努力しております。これからも関節リウマチの患者さんのために、頑張っていきたいと思っております。



APLAR 2006から Medical-Expo APLAR 2008へ

聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター長 第13回APLAR会長 西岡久寿樹



くは、JCRから一般口演
に若手の研究者の参加が少なかったことです。

◆APLARの将来像を描く

APLAR圏はサウジアラビアから中東、アジア、オセアニア地域など実に広範囲な国々から構成され、地球上の人口の2/3が居住しています。文化や宗教、歴史、風土など実に多様性に富んだ国々が「リウマチ学」という主題のもとに、多くの人々が参加する素晴らしい学術集会であります。このAPLAR Worldのリウマチ学にも必要なのは、教育とリウマチ性疾患に関する情報の収集でしょう。更には若手研究者の育成など、やるべきことは山のようにあり、企業側にとっても市場性が極めて豊富なことは特筆すべき事です。

今後のAPLARの学術集会は東アジア、オセアニア、インドをコアとする中央アジア、旧ソ連から独立した国々やサウジアラビアなどの中近東といういくつかのグループが緩やかな連合体を形成し、それぞれの特徴を生かした学術運営を持ち回りで行うことが望ましいでしょう。それが、APLARの基盤の確立に大きく寄与すると思われま。

◆APLAR2006からAPLAR2008へ

このような意味で、横浜で開催予定のAPLAR2008はその運営に大きな責任が課せられることとなります。まず、APLAR未加盟国43カ国に出来るだけ加盟してもらうような働きかけが必要です。更には、学術集会をよりサイエンスの面で実りのある、なおかつビジネスや教育プログラムの充実を図る工夫を検討中です。

WHOや厚生労働省、外務省、日本医学会、日本医師会、日本リウマチ学会は無論のこと関連学会などの強力な支援体制が除々にですが、その基盤が形成されてきています。Medical-Expo APLAR2008の会議はAPLARに埋もれている実に豊富なサイエンスを掘り起こし、国内外の多くの人々に参加して頂き有意義な学術集会を目指しています。

なお、APLARのここ2年間の学術的な活動に対し、米国Arthritis FoundationからGlobalな活動を行っている学術団体として、その活動が評価され「Marriott Lifetime Achievement Award」が今年のACR開催時に授与されることになりました。これでようやくAPLARの活動が欧米からも高く評価されてきたものと思います。

先月8月1日から5日までマレーシアのクアラルンプールで開催されたAPLAR2006は、8月という時期にも関わらず、世界中の国や地域から約2180名の参加があり、会議の構成としてもEULARやACRに決して劣ることのない素晴らしいものでした。

小生は2004年から2006年のこの会議終了まで、APLARのPresidentを務めさせて頂きました。

マレーシアリウマチ学会は会員数が50名前後であり、その学会のProf. Swan Sin Yeapがホストをするというので、その運営にはACRやEULARの主なメンバーに全面的な協力を依頼しました。特に前日のclinical course lectureは全面的にACRの協力を要請したところ、優れた演者によるAPLARへの教育講演がACRのannual course lectureと同じ型で行われました。そして、多くの参加者に有意義な臨床リウマチ学会の教育プログラムが展開されたことは、まさに画期的なイベントでした。

初日のplenary sessionでは、plenary hallが満席に近い参加者で埋め尽くされ、Sir R. Maini, Dr. P. E. Lipsky, Dr. M. Brownに次いで小生がAPLAR圏のリウマチ学の現状のoverviewと同時に、これまでのAPLAR圏の加盟国が世界のリウマチ学に貢献してきた経緯を中心に講演しました。特に1世紀も前の北里柴三郎先生の抗体療法が、今日のTNF α などの抗体療法や抗サイトカイン療法として連続として引き継がれた事、さらにシルクロード外交の医療版として象徴されるように、APLARの今後のあり方について、30分程の会長講演をさせて頂きました。

◆充実してきたAPLARの学術集会

これまで、APLAR前身のSEAPALの時代からAPLARに参加させて頂いてきていますが、前回の韓国の済州島でのAPLAR2004をひとつのマイルストーンとしてAPLARの学術プログラムの内容が充実して来ました。ともすれば、アジア圏のお祭り気分的なムードから一転して、特に韓国、中国の若手研究者を中心に新しいオリジナリティのある研究が徐々に発表されていたことは特筆に値します。

EULARからも多くの知人が参加して頂き、この会議を盛り上げてくれました。一方、JCRのブースには事務局の森田さんが多くの会員にJCRの活動とキャンペーンをされていました。

EULAR SymposiumはDr. Kvein (EULAR前会長)と小生が座長を務め、種々のリウマチ性疾患についてEULAR治療ガイドラインについての活発な議論が展開されました。惜しむら

2006年度(中)日本リウマチ学会第19次「リウマチ指導医」認定者

2006年度のリウマチ指導医には次の78名の方が認定されました。
 なお、認定証の有効期間は2007年3月1日から2012年2月29日までです。

相田 哲史	厚井 薫	瀧美 達也	五十嵐 徹	市川 健司	市川 徳和	市田 公美	出口 治子
稲葉 雅章	稲葉 裕	白井 正明	乳原 善文	遠藤 平仁	大串 文隆	太田 修二	大野 岩男
岡崎 貴裕	岡山 昭彦	尾島 朋宏	加藤 賢一	金井 美紀	川井 孝子	川上 純	久米田靖郎
小嶋 俊久	小林 真司	小林 弘	後藤 仁志	佐田 榮司	佐藤 慎二	篠原 正英	杉山公美弥
鈴木 昌彦	曾根 三郎	高柳 広	武井 正美	多田 芳史	立川 裕史	田中 栄	田中 秀和
谷 憲治	谷 知久	田村 直人	徳永 大作	土井田 稔	仲田 三平	中塚 敬輔	中村 孝志
長澤 浩平	西坂 文章	野寄 浩司	橋本 英雄	早川 和恵	藤本 隆	古谷 武文	星野 明穂
堀内 博志	横野 茂樹	増田 公男	松下 功	松本 功	三崎 義堅	水関 隆也	三浪 明男
宮前多住子	村上 修一	室 慶直	本川 哲	森信 暁雄	森本 真司	山路 健	山田 一人
梁 広石	吉田 智彦	吉原 良祐	渡辺 紀彦	和田 隆志	和田 孝彦		

2006年度(中)日本リウマチ学会第20次「リウマチ専門医」認定者

2006年度のリウマチ専門医には次の204名の方が認定されました。
 なお、認定証の有効期間は2007年3月1日から2012年2月29日までです。

赤井 靖宏	朝比奈一三	浅見由希子	東 浩平	東 太地	東 光久	天野 浩文	荒武 正人
飯田 紀子	飯塚 進子	飯干 明	石塚 謙	齋 謙	出浦 正	稲垣 克記	井上 淳
井上 衛	今泉 泰彦	岩川 賀世	岩谷 逸平	上坂 真司	上田 直哉	臼井 秀樹	内田 秀穂
宇野津雅哉	太田 周介	大谷 博	大野 一幸	大野 貴敏	小笠原 均	岳原 吾一	岡本 明子
小山 雄太	片岡英一郎	片桐 彰	金森 達也	亀田 智広	唐澤 博美	唐澤 里江	河口 大介
川崎 善子	菅野有紀子	北川 篤	橋高 克治	金城 紀子	金 基哲	日下 達夫	戸座 康夫
久米 健介	倉田 亮	黒坂 望	黒瀬 理恵	合田 英明	神津 教倫	木暮 照子	小谷 卓矢
児玉 博隆	後藤 大輔	小西池泰三	五野 貴久	古林 啓介	小林 祥子	小林 勇人	駒形 嘉紀
古宮 俊幸	近 祐次郎	斎藤 泉	坂井 宣彦	坂田 亮介	作田 建夫	桜井 正	櫻庭 裕丈
佐々木 幹	佐々木信人	佐藤 愛	佐藤 恵子	佐藤弘一郎	佐藤 衛	佐藤 百年	澤向 範文
設楽 久美	志留 大介	篠田 経博	柴田 圭一	柴田 正人	島田 幸造	嶋田 航也	清水 英治
清水 幸博	下島 恭弘	白岩 秀隆	杉浦 一充	杉浦 文昭	鈴木 英二	鈴木 健司	鈴木 修一
砂堀 克枝	角野 隆信	関谷 文男	副島 誠	曾根 茂樹	孫 瑛洙	高島 英典	高田 清式
高田 伸彦	高橋 伸典	高谷磨紀代	竹内 茂	田中 史子	田中 真希	田端 理英	玉置健一郎
玉地 智宏	田村 靖之	陳 宗雅	辻 剛	辻 聡一郎	辻村 静代	坪井 秀規	津山 健
露崎 淳	寺田 信	徳永美貴子	富澤 健史	中澤 成史	中下 珠緒	中田 真司	中原 英子
中村 明彦	中屋 来哉	中山 潤一	名倉 誠明	成重 崇	新納 宏昭	西小森隆太	西澤 良雄
西田 住弘	西村 彰代	西山 秀木	信原由夫子	野村 洪海	萩原 主祐	橋本 篤	長谷川和正
服部 真紀	林 和生	林 太智	原 潤一郎	針生 光博	春田 善男	樋口るみ子	平島 源子
廣瀬 晃一	廣瀬 伸次	福田 昇司	福本 巧	福録 潤	藤澤 純一	藤田 盛	藤田 芳郎
藤原 道雄	古川加奈子	古川 誠治	古崎 章	星 尚人	堀苑 英寛	堀田 哲也	前田 伸治
牧 伸樹	牧野 雄一	松下 雅和	松永 大吾	松縄 瑞穂	真村 瑞子	丸山 直紀	三木 健司
三木 秀賢	水村 浩之	三苦 弘喜	南 晋司	宮崎 剛	宮田 淳也	富西 圭太	森岡 秀夫
森 武人	守屋 有二	八子 徹	山川 尋	山崎 斉子	山下 真	山下 美鈴	山路 倫生
山田 浩之	山島 大材	山本 晃裕	山本 健吾	山本 健志	山本 直弘	山本 学	菊山 峰史
横田 香里	吉田 秀雄	吉富 啓之	米村 憲輔				

2007年度日本リウマチ学会教育施設募集および継続申請のお知らせ

【教育施設の募集について】

日本リウマチ学会では前年度に引き続き2007年度の教育施設の募集を行います。認定を希望する診療施設は次の各号の条件をすべて満たしていることが必要です。

1. 総合病院、またはこれに準ずる病院、およびリウマチ専門病院
2. リウマチ性疾患が年間100症例（関節リウマチを30症例以上含む）以上あること。
3. 研修環境が総合的に整備されていること。
4. 指導医1名以上、または専門医2名以上が勤務していること。なお、専門医1名は定期的に勤務する非常勤（2回/月程度以上）を含めることができる。
5. リウマチ学に関する教育が定期的に行われていること。

教育施設の認定を申請される診療施設の長は、教育施設申請用紙をE-mail又はハガキで事務局までご請求下さい。教育施設の認定のための日程は、申請受付を2007年6月末日で締切り、認定審査を行い9月に認定の通知を発送する予定です。

【教育施設の継続申請について】

2004年9月1日新規または継続認定の教育施設につきましては、認定証の有効期限が2007年8月31日となっておりますので資格維持の手続きが必要となります。5月中に本委員会から該当する教育施設に「継続申請書」用紙を送付いたしますので、継続を希望される教育施設は2007年6月末日までに同申請書を提出して下さい。

なお、(中)日本リウマチ学会「教育施設」一覧表はニュースレター2006 No.12 22～28頁またはホームページ (<http://www.ryumachi-jp.com/authori/itiran.html>) に掲載していますのでご参照下さい。



持続性抗炎症・鎮痛剤 《ナブメトン錠》

指定医薬品
 **レリフェン[®]錠**
 RELIFEN RELIFEN[®]400 （原研薬）

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意につきましては添付文書をご参照ください。

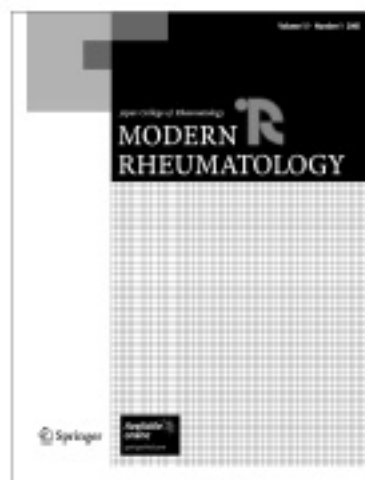
製造販売元
株式会社 三和化学研究所
 本社：名古屋市東区東山町30番地 〒460-8021
 ●ホームページ <http://www.skk-net.com/>
 総機 **グラクソ・スミスクライン株式会社**

資料請求先・問い合わせ先
 コンタクトセンター
☎0120-19-8130
受付時間：月～金 9:00～17:00(祝日除く)

2003年7月作成

Modern Rheumatologyへの投稿と論文引用のお願い

Letter From Editor-In-Chief



MR誌は、MEDLINEへの登録の認可後一年が経過し、16-1号よりMR掲載全論文がMEDLINE/PubMedに掲載されておりますことは既にご案内の通りです。また、PubMedには15巻以前の論文についても順次掲載の予定です。

今後見込まれるImpact Factor取得においては、MR掲載論文がどれだけ他のジャーナルの論文に引用されるかが重要な課題となります。このためにもこれまでにMR誌に掲載された論文は、今後できる限り積極的に引用していただけるようお願いいたします。

MR誌を我国のリウマチ学研究的の発信拠点として世界に向けて飛躍発展させるためには、まず日本リウマチ学会会員の方々に積極的に論文を投稿し、引用していただくことが必須です。例えば若手研究者に学位論文としてMRを利用していただくならば、迅速に査読を行い優先的に早期掲載を考慮するなどの便宜を図ります。原著論文や症例報告のみならず、速報やレター、また総説の一般投稿も歓迎します。

MRへの新規投稿をお待ちすると同時に、新たな論文執筆に際しては学会ホームページのMR掲載論文検索機能もご活用の上、MR論文を出来る限り引用していただけるようお願いいたします。

(MR編集委員会委員長 三森経世)

学会員専用ホームページのご案内

◆会員専用ページをご利用ください

有限責任中間法人日本リウマチ学会では学会ホームページ、メルマガを通じ、学会の情報をいち早く公開しております。さらに「会員専用 ページ」ではニューズレター、メルマガのバックナンバーのほか、学会英文誌Modern Rheumatology (MR)の過去5年間に掲載された論文のフルテキスト(PDFファイル)がご覧いただけるほか、最新号も冊子として公開される前に電子ジャーナルとしてご覧いただけます。便利な検索機能も追加していますので、是非ご利用ください。会員専用ページは入会いただければ、どなたでもご覧いただけます。

◇メールアドレスをご登録ください

メルマガの受信と「会員専用ページ」へのログインには、学会へのメールアドレス登録が必要です。学会事務局 (gakkalm@ryumachi-jp.com) までお持ちのメールアドレスをお知らせください。

*Yahoo、hotmailなどのフリーメールでご登録の皆様へ

学会からのメールが「迷惑メール」に振り分けられてしまう場合は、迷惑メールフォルダーからメールを選択し、「迷惑メールから除外(迷惑メールではない)」の設定を行っていただくと、次回から正常に受信できます。新規アドレス登録または変更する場合、フリーメール 以外での申請を推奨します。

◇会員専用ページへのログイン方法

すでにメールアドレスを登録されている方、学会に新規にメールアドレスを登録された方は、ホームページ右上の「会員専用ページ」入口から、「ログインが初めての方は」に記述されている手順に従いパスワード登録を行ってください。

登録されたメールアドレスとパスワードにより「会員専用ページ」がご覧いただけます。

その他、ご不明な点がございましたら学会事務局までお問い合わせください。

メールアドレス登録送付先(問合せ) : gakkalm@ryumachi-jp.com

詳細情報 : <http://www.ryumachi-jp.com/question/instruction/login.html>

*登録時に入力される生年月日など会員の個人情報は、学会が安全管理に務め、第三者への提供や開示を一切せず、利用目的も案内の範囲内に限定されています。

学会のプライバシー・ポリシー : <http://www.ryumachi-jp.com/privacy/index.html>

JCR専門医単位認定TV講演のお知らせ

JCRでは、インターネットTV講演を通じリウマチ専門医の単位申請を受付けております。
現在第2次リウマチ学会TV講演として、2006年9月以降開催された各支部の第1回JCR地域教育研修会から推薦演題10題を収録し公開しています。

JCR専門医単位認定TVは会員の方はどなたでも視聴できますが単位取得申請は有料となります。

★ TV講演での単位取得の上限は、専門医資格更新に必要な50単位中7単位、専門医申請に必要な30単位中5単位までです。

第2次JCR専門医 単位認定TV講演	単位申請期間：2007年1月15日～4月25日
	単位取得費用：1単位 3,000円
	単位取得上限：7単位（専門医資格更新） ：5単位（専門医申請）
	単位申請方法：TV講演視聴後、Eメールにて視聴講演と単位数を申請
	ホームページURL： https://www.ryumachi-jp.com/Ryumachi/Secure/kaiin/movie/guide.html (JCR学会員専用ページ)

JCR専門医制度委員会/JCR生涯教育委員会/JCR情報化委員会

第2次JCR専門医単位認定TV講演一覧（2007年4月25日まで）

	演題タイトル	演者	講演日及び研修会
RT-1	「生物学的製剤の効果減弱例に対する滑膜切除の意義」	東京女子医科大学東医療センター病院長 井上和彦	2006年9月2日(土) 第1回JCR近畿地域教育研修会
RT-2	「RAの内科的合併症」	新潟大学医学部保健学科 教授 中野正明	2006年9月3日(日) 第1回JCR中部地域教育研修会
RT-3	「RAの整形外科的管理と治療」	国立病院機構九州医療センター 整形外科・リウマチ科 医長 宮原秀明	2006年9月17日(日) 第1回JCR九州・沖縄地域教育研修会
RT-4	「RAの早期診断と初期治療」	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医歯学 科学講座(第一内科) 教授 江口勝美	
RT-5	「関節リウマチの手術療法」	独立行政法人労働者健康福祉機構香川労災病 院整形外科 部長 横山良樹	2006年10月22日(日) 第1回JCR中国・四国地域教育研修会
RT-6	「関節リウマチにおけるサイトカイン発現異常」	愛知医科大学リウマチ科 教授 山村昌弘	
RT-7	「膠原病と皮膚疾患 —皮膚症状の評価と難治性皮膚病変へのアプローチ—」	大阪大学大学院医学系研究科皮膚科 教授 片山一朗	2006年11月23日(木) 第1回JCR北海道・東北地域教育研修会
RT-8	「初心者のための免疫学・分子生物学」	北海道大学遺伝子病制御研究所病態研究部門 免疫生化学分野 教授 小野江和則	
RT-9	「血管炎症候群の診断・評価・治療 —ANCA関連血管炎を中心に—」	聖マリアンナ医科大学リウマチ・膠原病・アレルギー内科 教授 岡崎承一	2006年12月9日(土) 第1回JCR関東地域教育研修会
RT-10	「PETの骨関節炎診断への応用」	横浜市立大学整形外科 教授 齋藤知行	

詳細につきましてはJCR学会本部事務局にお問い合わせいただくか、JCR学会ホームページ<http://www.ryumachi-jp.com>をご覧ください。

故名誉会員遺族から学会に寄附

平成18年11月1日ご逝去された故(中)日本リウマチ学会名誉会員 勝正孝先生の御令嬢勝 慶(かつ・けい)様より、「夫・勝正孝が生前日本リウマチ学会で大変お世話になったので、些少ではあるが、何かの役に立たせて欲しい。」と、寄付の申し出があり、学会では懇篤なご遺志を対し、慎んでお受けした。

平成19年1月19日、長男 勝正英氏ご夫妻が、日本リウマチ学会事務局を訪ね、事務局長に手渡された。事務局長は「有難くお受けしリウマチ学会のために活用させていただきます。」と丁寧に御礼を述べ、小池理事長に報告すると共に、2月2日の理事会に報告した。

勝正孝先生は、1957年4月に日本リウマチ学会の前身である「日本リウマチ協会」発会と同時に入会され、1975年より幹事(現理事)を6年間務められ、1987年5月に日本リウマチ学会名誉会員に推挙された。晩年は国立病院機構霞ヶ浦病院名誉院長として後輩の指導に当たられ、生涯を通じリウマチ学発展に寄与された。

訃報

初代日本人SEAPAL(現APLAR)会長(1976-1980)佐々木 智也(さとし)先生が2007年3月8日にご逝去いたしました。日本リウマチ学会の創立20周年史を執筆され、また、今年には創立50周年記念書にも原稿を寄せられ、創生期の頃から半世紀にわたり、内外で本学会の発展に多大のご貢献を賜りました。謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。



SUVENYL



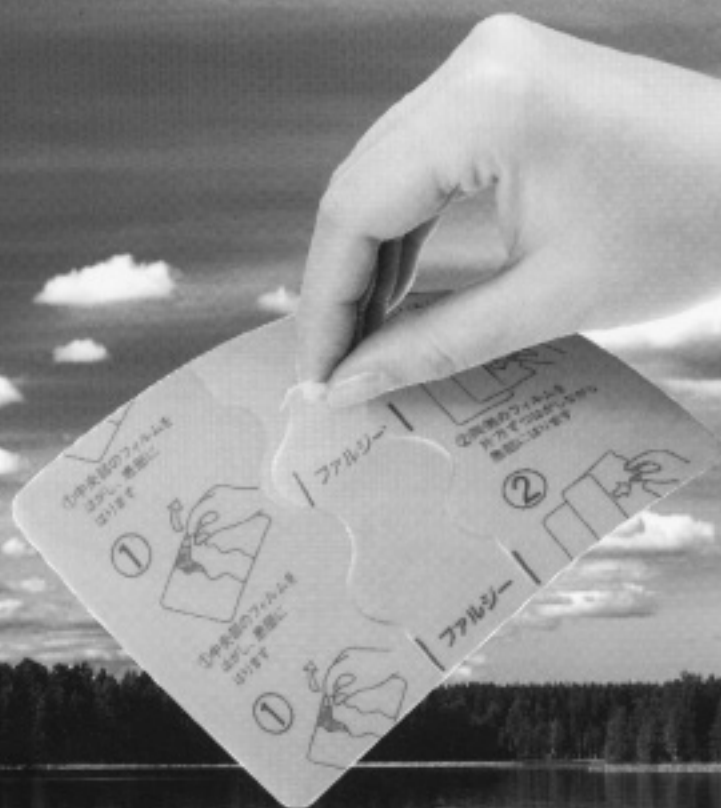
関節機能改善剤
指定医薬品、処方せん医薬品[®]

薬価基準収載

スベニール[®] ディスポ関節注25mg
バイアル関節注25mg
SUVENYL[®] ヒアルロン酸ナトリウム関節内注射液

注) 注意-医師等の処方せんにより使用すること

※「効能・効果」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌」、「使用上の注意」等については最新の添付文書をご参照ください。 <http://www.chugai-pharm.co.jp>



経皮吸収型鎮痛消炎剤

指定医薬品

ファルジー®

Falzy® : フェルビナク貼付剤

● 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

販売

maruho

【資料請求先】

マルホ株式会社

大阪市北区中津1-5-22 〒531-0071

製造販売

埼玉第一製薬株式会社

埼玉県春日部市南宋町8-1

- 巻頭言
JCR2007開催について…………… 龍 順之助… 1
- 第51回日本リウマチ学会総会・学術集会
第16回国際リウマチシンポジウム
開催概要／学会総会・学術集会参加の皆様へ／専門医制度単位の取得
について／口演発表時間／ポスターセッションについて／プログラム
委員会／アニュアルコースレクチャー／タイムテーブル／国際リウマ
チシンポジウム／会場へのアクセス&ホテルガイドマップ／各会場周
辺案内／国際リウマチシンポジウム・スカラーシップ枠セッション
事前参加申込書 …………… 2～24
- コラム
感染免疫学とリウマチ学との接点……………小安 重夫…25
- 各支部だより……………26
(中)日本リウマチ学会 中国・四国支部
- 各地域で活躍中の若手医師の声……………阿部 麻美…28
- APLAR 2006からMedical-Expo APLAR 2008へ……………西岡久寿樹…29
- INFORMATION……………30～33
2006年度(中)日本リウマチ学会第19次「リウマチ指導医」認定者／
2006年度(中)日本リウマチ学会第20次「リウマチ専門医」認定者／
2007年度日本リウマチ学会教育施設募集および継続申請のお知らせ／
Modern Rheumatologyへの投稿と論文引用のお願い／学会員専用ホー
ムページのご案内／JCR専門医単位認定TV 講演のお知らせ
- 目次・奥付……………36

●お詫びと訂正

本誌ニュースレター12号(12月20日号)に誤りがありましたので、お詫びして訂正原稿を本号29ページに掲載いたします。

●ご意見をお聞かせください

Newsletter「リウマチ」では会員の皆様のご意見・ご要望を募集しております。下記メールアドレスまでお寄せください。

E-mail: nl@ryumachi-jp.com

(中)日本リウマチ学会ホームページのご案内

登録情報(住所、勤務先など)の変更、留学届け、その他お問合せは学会ホームページをご利用ください。

URL: <http://www.ryumachi-jp.com>

- 情報化委員会 担当理事: 澤井高志
ニュースレター小委員会 委員長: 天野宏一／委員: 諏訪 昭・田中真希・中島重矢子(順不同)

ニュースレター 2006年・第12号 発行日2007年3月20日
発行者 有限責任中間法人 日本リウマチ学会
〒102-0001 東京都港区虎ノ門1-1-24 オカモトヤビル9F
TEL: 03-5251-5353 FAX: 03-5251-5354
E-mail: gakkaim@ryumachi-jp.com URL: <http://www.ryumachi-jp.com>
デザイン・制作 クリエイトM2 〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-5
TEL: 03-5215-6560 FAX: 03-5215-6560 E-mail: creat-m2@sea.plala.or.jp
印刷社 山下印刷(有) 〒105-0003 東京都港区西新橋1-21-4
TEL: 03-3591-1025 FAX: 03-3591-0846



完全ヒト型可溶性TNF α /LT α レセプター製剤 薬価基準収載

エンブレル[®] 皮下注用25mg

ENBREL[®] 25mg for S.C. Injection エタネルセプト(遺伝子組換え)製剤

生物由来製品 劇薬 指定医薬品 処方せん医薬品[※] 注)注意—医師等の処方せんにより使用すること

注意 効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

Wyeth

製造販売元
ワイズ株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目2番2号
<http://www.wyeth.jp/>

販売
武田薬品工業株式会社
〒540-8945 大阪市中央区道頓町四丁目1番1号
<http://www.takeda.co.jp/>

資料請求先:ワイズ株式会社 ワイズくすりの情報室 〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目2番2号



抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤

薬価基準収載

レミケード点滴静注用100

REMICADE[®] for I.V. Infusion100

インフリキシマブ(遊離モノクローナル抗体)

【薬価】 1000円 【用法】 点滴静注 【性状】 凍結乾燥剤 【注意】 凍結乾燥剤(凍結乾燥剤)

■ 効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む
使用上の注意等については、添付文書
をご参照ください。



抗リウマチ剤

薬価基準収載

メトトレキサート錠2mg「タナベ」

METHOTREXATE Tablets 2mg

メトトレキサート錠

【薬価】 200円 【用法】 経口服用 【性状】 凍結乾燥剤(凍結乾燥剤)



製造販売元(資料請求先)

田辺製薬株式会社

〒541-8505 大阪市中央区道修町3丁目2番10号
<http://www.tanabe.co.jp/>

2006年11月作成